

2020 授業科目〈シラバス〉

Okinawa Prefectural University of Arts Syllabus

沖縄県立芸術大学
美術工芸学部

授業科目〈シラバス〉について

この「2020 授業科目〈シラバス〉は、令和2年度に美術工芸学部で開講される専門教育科目について、各担当教員から提出された授業計画（シラバス）をまとめたものです。

履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、総合教育科目、共通教育科目及び教職に関する科目は別冊となっています。

1. 実技の授業科目は、その多くが複数の実習（課題）で構成されています。この場合、授業科目の頁のあとに実習（課題）ごとのシラバスが記載されていることがあります。
2. 今年度開講する科目のみを掲載しています。
3. 集中講義科目については、単位数・学期欄に（集中）と表記されています。
4. 担当教員名欄の（名）は名誉教授を、（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
5. ■履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、授業外の学習を含めて履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。
6. その他、本学の授業科目には科目名の末尾に番号等が付されているものがあります。これらは、科目開設の趣旨や性格、また分類上のルールがありますので、入学時に配布された履修案内等を確認してください。

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁	
絵画	必修主要	21110	絵画基礎	5	1	前	実技	1	
		21112	日本画Ⅰ	6	1	後	実技	7	
		21113	箔	2	1	後	演習	12	
		21213	日本画Ⅱ - Ⅰ	6	2	前	実技	13	
		21214	日本画Ⅱ - Ⅱ	7	2	後	実技	15	
		21312	日本画Ⅲ - Ⅰ	6	3	前	実技	19	
		21313	日本画Ⅲ - Ⅱ	7	3	後	実技	21	
		21314	装丁実習	1	3	前	実技	22	
		21121	油画Ⅰ	7	1	後	実技	24	
		21223	油画Ⅱ - Ⅰ	6	2	前	実技	28	
		21224	油画Ⅱ - Ⅱ	7	2	後	実技	32	
		21322	油画Ⅲ - Ⅰ	7	3	前	実技	36	
		21323	油画Ⅲ - Ⅱ	6	3	後	実技	40	
		21324	染	2	3	後	演習	43	
		21231	絵画特論Ⅰ	2	1	通年	講義	47	
		21331	絵画特論Ⅱ	2	2	通年	講義	48	
		21291	古美術研究	4	2	後期	演習	49	
		必修専攻 専門関連	21132	彫刻(絵)	2	1	前	演習	50
			21133	デザイン(絵)	2	1	前	演習	51
			21209	工芸(絵)	2	2	前	演習	52
		彫刻	必修主要	22110	デッサン	1	1	前	実技
22113	彫刻Ⅰ - Ⅰ			5	1	前	実技	54	
22114	彫刻Ⅰ - Ⅱ			7	1	後	実技	58	
22213	彫刻Ⅱ - Ⅰ			6	2	前	実技	61	
22214	彫刻Ⅱ - Ⅱ			6	2	後	実技	64	
22215	構成			1	2	後	実技	67	
22313	彫刻Ⅲ - Ⅰ			6	3	前	実技	73	
22314	鍛造			1	3	前	実技	76	
22315	彫刻Ⅲ - Ⅱ			6	3	後	実技	77	
22316	鑄造			1	3	後	実技	78	
22231	彫刻特論Ⅰ			2	2	通年	講義	80	
22331	彫刻特論Ⅱ			2	3	通年	講義	81	
22291	古美術研究			4	2	後	演習	82	
必修専攻 専門関連	22121			絵画(彫)	2	1	前	演習	83
	22209	デザイン(彫)	2	2	前	演習	84		
	22341	工芸(彫)	2	3	前	演習	85		
	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1~4	前	講義	休講		
選択専攻 専門関連	22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1~4	前	講義	87		
芸術学	必修主要	23110	素描(芸)	2	1	前	演習	88	
		23114	実技研究(絵画)	3	1	後	実技	89	
		23115	実技研究(表現)	2	1	後	実技	92	
		23113	基礎演習	2	1	後	演習	95	
		23217	学外研究	4	2	後	演習	96	
	必修専攻 専門関連	23151	絵画(芸)	2	1	前	演習	98	
		23152	彫刻(芸)	2	1	前	演習	99	
		23153	デザイン(芸)	2	1	前	演習	100	
		23154	工芸(芸)	2	1	前	演習	101	
	選択主要	23421	美学演習Ⅰ	4	3~4	通年	演習	102	
		23422	美学演習Ⅱ	4	3~4	通年	演習	102	
		23423	芸術学演習Ⅰ	4	3~4	通年	演習	103	
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3~4	通年	演習	103	
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3~4	通年	演習	104	
23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3~4	通年	演習	105			
23427	東洋美術史演習Ⅰ	4	3~4	通年	演習	106			
23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3~4	通年	演習	106			

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁	
芸術学	選択主要	23429	西洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	107	
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	107	
		23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	108	
		23271	芸術文化論演習B	2	2～4	前	演習	110	
		23431	語学演習A(英語)	4	2～4	通年	演習	111	
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	113	
		23433	語学演習C(仏語)	4	2～4	通年	演習	114	
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	115	
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	116	
		23436	原典研究B(漢文)	4	2～4	通年	演習	117	
		23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	休講	
		23438	美学特講	2	2～4	前	講義	118	
		23439	芸術学特講	2	2～4	後	講義	119	
		23440	東洋美術史特講	2	2～4	前	講義	120	
		23228	日本美術史特講	2	2～4	後	講義	121	
		23441	西洋美術史特講	2	2～4	後	講義	122	
		23227	比較芸術学特講	2	2～4	後	講義	123	
	選択専攻 専門関連	23330	絵画演習A	2	2～3	前	演習	292	
		23331	絵画演習B	2	2～3	後	演習	293	
		23261	彫刻演習A	2	2～3	前	演習	294	
		23262	彫刻演習B	2	2～3	後	演習	295	
		23334	デザイン演習A	2	2～3	前	演習	296	
		23335	デザイン演習B	2	2～3	後	演習	297	
		23336	工芸演習A	2	2～3	前	演習	298	
	23337	工芸演習B	2	2～3	後	演習	299		
	デザイン	必修主要	24112	デザインⅠ	3	1	前	実技	124
			24113	木工芸基礎	2	1	後	演習	127
			24114	立体造形(デ)	2	1	後	演習	128
			24115	素描(デ)	1	1	後	実技	129
			24116	色彩構成	2	1	後	演習	130
			24117	空間構成	2	1	後	演習	131
			24223	デザインⅡ-I	7	2	前	実技	132
			24224	デザインⅡ-II	7	2	後	実技	138
			24343	デザインⅢ-I	7	3	前	実技	144
			24344	デザインⅢ-II	7	3	後	実技	150
		24331	デザイン特別演習	2	3	前	演習	157	
		24391	学外研究	4	3	後	演習	158	
必修専攻 専門関連		24121	絵画(デ)	2	1	前	演習	159	
		24123	彫刻(デ)	2	1	前	演習	160	
		24124	工芸(デ)	2	1	前	演習	161	
選択専攻 専門関連		24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	317	
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	318	
	24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	319		
	24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	320		
	24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	321		
	24171	視覚伝達論A(印刷)	2	1～4	前	演習	322		
	24172	視覚伝達論B(映像)	2	1～4	後	演習	323		
	24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	324		
	24184	人間工学	2	1～4	後	講義	休講		
24251	図学	2	1～4	前	演習	325			

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁		
工 芸	必修主要	25112	描写	1	1	前	実技	163		
		25113	色彩	1	1	前	実技	164		
		25114	立体構成	1	1	前	実技	165		
		25101	工芸Ⅰ	7	1	後	実技	168		
		25209	工芸Ⅱ	5	2	前	実技	173		
		25261	立体造形(工)	1	2	前	実技	178		
		25262	版画	1	2	前	実技	179		
		25391	古美術研究	4	3	後	演習	180		
		25392	デザインと素材	1	3	前	実技	181		
		25221	染Ⅰ	7	2	後	実技	182		
		25323	染Ⅱ	13	3	通年	実技	188		
		25231	織Ⅰ	7	2	後	実技	200		
		25332	織Ⅱ	13	3	通年	実技	205		
		25232	繊維科学	2	2	後	講義	221		
		25222	染色化学	2	2	後	講義	222		
		25322	染織特別演習	2	3	後	演習	223		
		25211	陶芸Ⅰ	7	2	後	実技	224		
		25313	陶芸Ⅱ	13	3	通年	実技	229		
		25212	窯業化学	2	2	後	講義	240		
		25312	陶芸特別演習	2	3	通年	演習	241		
		25241	漆芸Ⅰ	7	2	後	実技	242		
		25343	漆芸Ⅱ	13	3	通年	実技	249		
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	264		
		25342	漆芸特別演習	2	3	前	演習	265		
		必修専攻 専門関連		25102	絵画(工)	2	1	前	演習	162
				25103	彫刻(工)	2	1	前	演習	166
				25104	デザイン(工)	2	1	前	演習	167
		選択専攻 専門関連		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	327
			25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	328	
			25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	329	
			25152	装飾論	2	1～4	後	講義	330	
			25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	331	
		25177	色彩論	2	1～4	前	講義	340		

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全専攻対象 (一部専攻除く科目あり)	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	休講
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	87
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	300
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	301
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	302
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	303
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	304
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	305
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	306
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	307
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	308
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	309
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	310
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	311
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	312
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	313
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	314
		24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	317
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	318
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	319
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	320
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	321
		24163	図法及び製図A	2	1～4	前	演習	338
		24164	図法及び製図B	2	1～4	後	演習	339
		24171	視覚伝達論A(印刷)	2	1～4	前	演習	322
		24172	視覚伝達論B(映像)	2	1～4	後	演習	323
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	324
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	休講
		24251	図学	2	1～4	前	演習	325
		24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	326
		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	327
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	328
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	329
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	330
25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	331		
25177	色彩論	2	1～4	前	講義	340		
自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	342
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	343

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成29年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁	
絵 画	必修主要	21311	日本Ⅲ	14	3	通年	実技	18	
		21412	日本画Ⅳ	14	4	通年	実技	23	
		21321	油画Ⅲ	14	3	通年	実技	35	
		21422	油画Ⅳ	14	4	通年	実技	44	
		21331	絵画特論Ⅱ	2	2	通年	講義	48	
		21291	古美術研究	4	2	後	演習	49	
		21431	西洋建築史概説A	2	1～4	前	講義	267	
	選択専攻 専門関連	21432	日本建築史概説A	2	1～4	後	講義	268	
		21433	ビジュアルデザイン概論	2	1～4	前	講義	269	
		21434	視覚伝達概論A(印刷)	2	1～4	前	演習	270	
		21435	視覚伝達概論B(映像)	2	1～4	後	演習	271	
		21436	陶磁史概説A	2	1～4	前	講義	272	
		21437	染織工芸史概説A	2	1～4	前	講義	273	
		21438	生活造形概論A	2	1～4	後	講義	274	
		21439	装飾概論A	2	1～4	後	講義	275	
	21440	漆芸概論A	2	1～4	後	講義	276		
	彫 刻	必修主要	22312	彫刻Ⅲ	13	3	通年	実技	68
			22412	彫刻Ⅳ	14	4	通年	実技	79
			22331	彫刻特論Ⅱ	2	3	通年	講義	81
専攻専門関連		22208	工芸B	2	3	前	演習	86	
選択専攻 専門関連		22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	休講	
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	87	
		22421	西洋建築史概説B	2	1～4	前	講義	277	
		22422	日本建築史概説B	2	1～4	後	講義	278	
		22423	クラフトデザイン計画概論	2	1～4	後	講義	279	
		22424	プロダクトデザイン概論	2	1～4	後	講義	280	
		22425	環境造形概論	2	1～4	前	講義	281	
		22426	陶磁史概説B	2	1～4	前	講義	282	
		22427	染織工芸史概説B	2	1～4	前	講義	283	
		22428	生活造形概論B	2	1～4	後	講義	284	
		22429	装飾概論B	2	1～4	後	講義	285	
22430		漆芸概論B	2	1～4	後	講義	286		
芸 術 学		必修主要	23411	卒業論文	5	4	通年	演習	97
			23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	102
		選択主要	23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	102
	23423		芸術学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	103	
	23424		芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	103	
	23425		日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	104	
	23426		日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	105	
	23427		東洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	106	
	23428		東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	106	
	23429		西洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	107	
	23430		西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	107	
	23442		芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	108	
	23431		語学演習A(英語)	4	2～4	通年	演習	111	
	23432		語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	113	
	23433		語学演習C(仏語)	4	2～4	通年	演習	114	
	23434		語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	115	
	23435		原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	116	
	23436		原典研究B(漢文)	4	2～4	通年	演習	117	
	23437		原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	休講	
	23438		美学特講	2	2～4	前	講義	118	
	23439		芸術学特講	2	2～4	後	講義	119	
23440	東洋美術史特講	2	2～4	前	講義	120			
23228	日本美術史特講	2	2～4	後	講義	121			
23441	西洋美術史特講	2	2～4	後	講義	122			
23227	比較芸術学特講	2	2～4	後	講義	123			

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成29年度入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁	
芸術学	選択専攻 専門関連	23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	301	
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	302	
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	303	
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	304	
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	305	
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	306	
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	307	
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	308	
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	309	
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	310	
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	311	
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	312	
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	313	
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	314	
		23443	陶磁史概説C	2	1～4	前	講義	287	
		23444	染織工芸史概説C	2	1～4	前	講義	288	
		23445	生活造形概論C	2	1～4	後	講義	289	
		23446	装飾概論C	2	1～4	後	講義	290	
		23447	漆芸概論C	2	1～4	後	講義	291	
		デザイン	必修主要	24342	デザインⅢB	7	3	後	実技
24431	デザインⅣ			15	4	通年	実技	156	
24331	デザイン特別演習			2	3	前	演習	157	
24391	学外研究			4	3	後	演習	158	
24132	西洋建築史			2	1～4	前	講義	317	
選択専攻 専門関連	24133		日本建築史	2	1～4	後	講義	318	
	24153		クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	319	
	24161		プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	320	
	24162		ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	321	
	24171		視覚伝達論A(印刷)	2	1～4	前	演習	322	
	24172		視覚伝達論B(映像)	2	1～4	後	演習	323	
	24181		環境造形論	2	1～4	前	講義	324	
	24182		色彩論	2	1～4	前	講義	340	
	24184		人間工学	2	1～4	後	講義	休講	
	24251		図学	2	1～4	前	演習	325	
	24252		CG基礎	2	2～4	後	演習	326	
	選択共通 専門関連		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	327
			25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	328
			25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	329
			25152	装飾論	2	1～4	後	講義	330
25171		漆芸論	2	1～4	後	講義	331		
工芸	必修主要	25433	染Ⅲ	14	4	通年	実技	197	
		25322	染織特別演習	2	3	後	演習	223	
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	205	
		25434	織Ⅲ	14	4	通年	実技	217	
		25412	陶芸Ⅲ	14	4	通年	実技	237	
		25312	陶芸特別演習	2	3	通年	演習	241	
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	249	
		25442	漆芸Ⅲ	14	4	通年	実技	260	
		25342	漆芸特別演習	2	3	前	演習	265	
		選択専攻 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	327
	25132		染織工芸史	2	1～4	前	講義	328	
	25151		生活造形論	2	1～4	後	講義	329	
	25152		装飾論	2	1～4	後	講義	330	
	25162		図法及び製図	4	1～4	通年	演習	336	
	25171		漆芸論	2	1～4	後	講義	331	
	25172		絵画史概説	2	1～4	後	講義	332	
	25173		彫刻史概説	2	1～4	前	講義	333	
	25174		現代芸術概論A	2	1～4	後	講義	334	
	25175		現代芸術概論B	2	1～4	前	講義	335	
	25176	沖縄美術工芸史概説	2	1～2	後	講義	休講		

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成29年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁		
全専攻対象 (一部専攻除く科目あり)	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	休講		
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	87		
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	300		
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	301		
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	302		
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	303		
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	304		
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	305		
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	306		
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	307		
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	308		
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	309		
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	310		
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	311		
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	312		
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	313		
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	314		
		24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	317		
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	318		
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	319		
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	320		
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	321		
		24171	視覚伝達論A(印刷)	2	1～4	前	演習	322		
		24172	視覚伝達論B(映像)	2	1～4	後	演習	323		
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	324		
		24182	色彩論	2	1～4	前	講義	340		
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	休講		
		24251	図学	2	1～4	前	演習	325		
		24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	326		
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	336		
		自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	342
				24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	343

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目一覧(平成28年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
絵画	必修主要	21411	日本画Ⅳ	15	4	通年	実技	23
		21421	油画Ⅳ	15	4	通年	実技	44
	選択専攻 専門関連	21431	西洋建築史概説A	2	1～4	前	講義	267
		21432	日本建築史概説A	2	1～4	後	講義	268
		21433	ビジュアルデザイン概論	2	1～4	前	講義	269
		21434	視覚伝達概論A(印刷)	2	1～4	前	演習	270
		21435	視覚伝達概論B(映像)	2	1～4	後	演習	271
		21436	陶磁史概説A	2	1～4	前(集中)	講義	272
		21437	染織工芸史概説A	2	1～4	前	講義	273
		21438	生活造形概論A	2	1～4	後	講義	274
		21439	装飾概論A	2	1～4	後(集中)	講義	275
		21440	漆芸概論A	2	1～4	後	講義	276
彫刻	必修主要	22411	彫刻Ⅳ	15	4	通年	実技	79
	選択専攻 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	休講
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	87
		22421	西洋建築史概説B	2	1～4	前	講義	277
		22422	日本建築史概説B	2	1～4	後	講義	278
		22423	クラフトデザイン計画概論	2	1～4	後(集中)	講義	279
		22424	プロダクトデザイン概論	2	1～4	後	講義	280
		22425	環境造形概論	2	1～4	前	講義	281
		22426	陶磁史概説B	2	1～4	前(集中)	講義	282
		22427	染織工芸史概説B	2	1～4	前	講義	283
		22428	生活造形概論B	2	1～4	後	講義	284
		22429	装飾概論B	2	1～4	後(集中)	講義	285
22430	漆芸概論B	2	1～4	後	講義	286		
芸術学	必修主要	23411	卒業論文	5	4	通年	演習	97
	選択主要	23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	102
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	102
		23423	芸術学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	103
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	103
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	104
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	105
		23427	東洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	106
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	106
		23429	西洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	107
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	107
		23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	108
		23431	語学演習A(英語)	4	2～4	通年	演習	111
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	113
		23433	語学演習C(仏語)	4	2～4	通年	演習	114
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	115
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	116
		23436	原典研究B(漢文)	4	2～4	通年	演習	117
23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	休講		
23438	美学特講	2	2～4	前	講義	118		
23439	芸術学特講	2	2～4	後	講義	119		
23440	東洋美術史特講	2	2～4	前	講義	120		
23228	日本美術史特講	2	2～4	後	講義	121		
23441	西洋美術史特講	2	2～4	後	講義	122		
23227	比較芸術学特講	2	2～4	後	講義	123		

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目一覧(平成28年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
芸術学	選択専攻 専門関連	23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	301
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	302
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	303
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	304
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	305
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	306
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	307
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	308
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	309
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	310
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	311
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	312
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	313
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	314
		23443	陶磁史概説C	2	1～4	前	講義	287
		23444	染織工芸史概説C	2	1～4	前	講義	288
		23445	生活造形概論C	2	1～4	後	講義	289
		23446	装飾概論C	2	1～4	後(集中)	講義	290
		23447	漆芸概論C	2	1～4	後	講義	291
		デザイン	必修主要	24431	デザインIV	15	4	通年
24331	デザイン特別演習			2	3	前	演習	157
24391	学外研究			4	3	後	演習	158
選択専攻 専門関連	24131		建築史	4	1～4	通年	講義	315
	24153		クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	319
	24161		プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	320
	24162		ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	321
	24171		視覚伝達論A(印刷)	2	1～4	前	演習	322
	24172		視覚伝達論B(映像)	2	1～4	後	演習	323
	24181		環境造形論	2	1～4	前	講義	324
	24182		色彩論	2	1～4	前	講義	340
	24184		人間工学	2	1～4	後	講義	休講
	24251		図学	2	1～4	前	演習	325
	24252		CG基礎	2	2～4	後	演習	326
	選択共通 専門関連		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義
25132		染織工芸史	2	1～4	前	講義	328	
25151		生活造形論	2	1～4	後	講義	329	
25152		装飾論	2	1～4	後	講義	330	
25171		漆芸論	2	1～4	後	講義	331	

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目一覧(平成28年度入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁
工芸	必修主要	25433	染Ⅲ	15	4	通年	実技	197
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	205
		25222	染色化学	2	2	後	講義	222
		25322	染織特別演習	2	3	後	演習	223
		25411	陶芸Ⅲ	15	4	通年	実技	237
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	249
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	264
		25342	漆芸特別演習	2	3	前	演習	265
		25391	古美術研究	4	3	後	演習	180
	選択専攻 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	327
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	328
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	329
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	330
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	336
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	331
		25172	絵画史概説	2	1～4	通年	講義	332
		25173	彫刻史概説	2	1～4	前	講義	333
		25174	現代芸術概論A	2	1～4	後	講義	334
	25175	現代芸術概論B	2	1～4	前	講義	335	
	全専攻対象 (一部専攻除く科目あり)	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義
22133			美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	87
22202			金属演習	2	2～4	後	演習	300
23125			芸術心理学	2	1～4	後	講義	301
23126			芸術学	2	1～4	前	講義	302
23135			彫刻史	2	1～4	前	講義	303
23136			デザイン史	2	1～4	前	講義	304
23137			工芸史	2	1～4	前	講義	305
23138			絵画史	2	1～4	後	講義	306
23141			書道史	2	1～4	前	講義	307
23142			現代芸術論A	2	1～4	後	講義	308
23143			現代芸術論B	2	1～4	前	講義	309
23145			一般芸術学	2	1～4	後	講義	310
23146			日本美術史	2	1～4	前	講義	311
23147		東洋美術史	2	1～4	前	講義	312	
23148		西洋美術史A	2	1～4	前	講義	313	
23149		西洋美術史B	2	1～4	後	講義	314	
24131		建築史	4	1～4	通年	講義	315	
24153		クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	319	
24161		プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	320	
24162		ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	321	
24171		視覚伝達論A(印刷)	2	1～4	前	演習	322	
24172		視覚伝達論B(映像)	2	1～4	後	演習	323	
24181		環境造形論	2	1～4	前	講義	324	
24182		色彩論	2	1～4	前	講義	340	
24184		人間工学	2	1～4	後	講義	休講	
24251		図学	2	1～4	前	演習	325	
24252		CG基礎	2	2～4	後	演習	326	
25162		図法及び製図	4	1～4	通年	演習	336	
自由科目	21202	写真演習	2	1～4	後	演習	342	
	24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	343	

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目一覧(平成27年度以前入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁
絵画	必修主要	21411	日本画Ⅳ	15	4	通年	実技	23
		21421	油画Ⅳ	15	4	通年	実技	44
工芸	必修主要	25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	205
		25232	繊維科学	2	2	後	講義	221
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	264
		25411	陶芸Ⅲ	15	4	通年	実技	237
		25312	陶芸特別演習	2	3	通年	演習	241
		25322	染織特別演習	2	3	前	演習	223
		25391	古美術研究	4	3	後	演習	180
全専攻共通	選択専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	休講
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	87
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	300
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	301
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	302
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	304
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	305
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	306
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	307
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	308
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	309
		24131	建築史	4	1～4	通年	講義	315
		24153	クラフトデザイン計画	2	2～4	後	講義	319
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	320
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	321
		24171	視覚伝達論A(印刷)	2	1～4	前	演習	322
		24172	視覚伝達論B(映像)	2	1～4	後	演習	323
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	324
		24182	色彩論	2	1～4	後	講義	340
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	休講
		24251	図学	2	1～4	前	演習	325
		24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	326
		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	327
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	328
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	329
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	330
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	336
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	331
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	310
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	311
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	312
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	313
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	314
自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	342
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	343

実務経験のある教員による授業科目（実践的教育を行う授業）

対象専攻等	区分	授業科目名	単位数	授業区分	教員名	職	担当形態	実務経験等	掲載頁	
学部	選択科目 共通専門 関連科目	ビジュアルデザイン概論 ビジュアルデザイン論	2	講義	笹原浩造	准教授	単独	アートディレクター、化粧品会社宣伝部勤務 (1986～2010年)	269 321	
		視覚伝達概論A 視覚伝達論A(印刷)	2	演習	赤嶺雅	教授	単独	グラフィックデザイナー、民間企業(情報通 信機械器具製造業、印刷業)デザイン室勤 務(1986～1992年)	270 322	
		視覚伝達概論B 視覚伝達論B(映像)	2	演習	仲本賢	教授	単独	映像作家	271 323	
		環境造形概論 環境造形論	2	講義	宮里武志	准教授	単独	設計事務所主宰、建築設計事務所等勤務 (1994～2002年)	281 324	
		日本美術史	2	講義	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員(1989～1994年)	311	
		東洋美術史	2	講義	金 恵信	教授	単独	美術批評家	312	
		西洋美術史B	2	講義	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	314	
		CG基礎	2	演習	真喜志康一	非常勤講師	単独	デザイン事務所経営	326	
絵画専攻	必修科目 主要科目	日本画Ⅳ	14	実技	平山英樹	教授	複数	日本画家	23	
					香川亮	准教授		画家		
					関谷理	講師		日本画家		
		油画Ⅳ	14	実技	知花均	教授	複数	版画家	44	
高崎賀朗	教授	画家								
阪田清子	准教授	画家								
彫刻専攻	必修科目 主要科目	彫刻Ⅳ	14	実技	波多野泉	教授	複数	彫刻家	79	
					砂川泰彦	教授		彫刻家		
					河原圭佑	講師		彫刻家		
					長尾恵那	講師		彫刻家		
		彫刻特論Ⅱ	2	講義	波多野泉	教授	オムニバス	彫刻家	81	
					砂川泰彦	教授		彫刻家		
芸術学専攻	選択科目 主要科目	芸術学演習Ⅰ	4	演習	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	103	
		芸術学演習Ⅱ	4	演習	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	103	
		日本美術史演習Ⅰ	4	演習	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員(1989～1994年)	104	
		日本美術史演習Ⅱ	4	演習	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員(1989～1994年)	105	
		東洋美術史演習Ⅰ	4	演習	金 恵信	教授	単独	美術批評家	106	
		東洋美術史演習Ⅱ	4	演習	金 恵信	教授	単独	美術批評家	106	
		芸術学特講	2	講義	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	119	
		東洋美術史特講	2	講義	金 恵信	教授	単独	美術批評家	120	
		日本美術史特講	2	講義	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員(1989～1994年)	121	
		デザイン専攻	必修科目 主要科目	デザインⅢ-I	7	実技	笹原浩造	准教授	複数	アートディレクター、化粧品会社宣伝部勤務 (1986～2010年)
高田浩樹	准教授						単独	デザイン事務所主宰		
又吉浩	准教授						単独	アニメーション作家		
宮里武志	准教授						単独	設計事務所主宰、建築設計事務所等勤務 (1994～2002年)		
赤塚 美穂子	講師						複数	プロダクトデザイナー、コイズミ照明株式会 社 勤務(2006年～2020年)		
(インターンシップ)	複数							インターンシップA・B		
デザインⅢB	7						実技	又吉浩	准教授	単独
				高田浩樹	准教授	単独		デザイン事務所主宰		
				仲本賢	教授	複数		映像作家		
又吉浩	准教授			映像作家						
デザインⅢ-II	7	実技	赤嶺雅	教授	複数	グラフィックデザイナー、民間企業(情報通 信機械器具製造業、印刷業)デザイン室勤 務(1986～1992年)	151 150			
(インターンシップ)	複数	インターンシップC・D								
工芸専攻	必修科目 主要科目	染Ⅲ	14	実技	名護朝和	教授	複数	染色家	197	
					宇良京子	講師		染色家		
		織Ⅲ	14	実技	真栄城興茂	教授	複数	染織家、織工房主宰	217	
					花城美弥子	准教授		染織家		
					久保田寛子	准教授		染織家		
		陶芸Ⅲ	14	実技	山田聡	教授	複数	陶芸家	237	
					島袋克史	講師		陶芸家		
漆芸Ⅲ	14	実技	水上修	教授	複数	漆芸家	260			
			當眞茂	准教授		漆芸家				

專門教育科目

主要科目

專攻專門関連科目

2020 授業科目〈シラバス〉

Okinawa Prefectural University of Arts Syllabus

沖縄県立芸術大学
美術工芸学部

授業科目〈シラバス〉について

この「2020 授業科目〈シラバス〉は、令和2年度に美術工芸学部で開講される専門教育科目について、各担当教員から提出された授業計画（シラバス）をまとめたものです。

履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、総合教育科目、共通教育科目及び教職に関する科目は別冊となっています。

1. 実技の授業科目は、その多くが複数の実習（課題）で構成されています。この場合、授業科目の頁のあとに実習（課題）ごとのシラバスが記載されていることがあります。
2. 今年度開講する科目のみを掲載しています。
3. 集中講義科目については、単位数・学期欄に（集中）と表記されています。
4. 担当教員名欄の（名）は名誉教授を、（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
5. ■履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、授業外の学習を含めて履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。
6. その他、本学の授業科目には科目名の末尾に番号等が付されているものがあります。これらは、科目開設の趣旨や性格、また分類上のルールがありますので、入学時に配布された履修案内等を確認してください。

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁	
絵画	必修主要	21110	絵画基礎	5	1	前	実技	1	
		21112	日本画Ⅰ	6	1	後	実技	7	
		21113	箔	2	1	後	演習	12	
		21213	日本画Ⅱ - Ⅰ	6	2	前	実技	13	
		21214	日本画Ⅱ - Ⅱ	7	2	後	実技	15	
		21312	日本画Ⅲ - Ⅰ	6	3	前	実技	19	
		21313	日本画Ⅲ - Ⅱ	7	3	後	実技	21	
		21314	装丁実習	1	3	前	実技	22	
		21121	油画Ⅰ	7	1	後	実技	24	
		21223	油画Ⅱ - Ⅰ	6	2	前	実技	28	
		21224	油画Ⅱ - Ⅱ	7	2	後	実技	32	
		21322	油画Ⅲ - Ⅰ	7	3	前	実技	36	
		21323	油画Ⅲ - Ⅱ	6	3	後	実技	40	
		21324	染	2	3	後	演習	43	
		21231	絵画特論Ⅰ	2	1	通年	講義	47	
		21331	絵画特論Ⅱ	2	2	通年	講義	48	
		21291	古美術研究	4	2	後期	演習	49	
		必修専攻 専門関連	21132	彫刻(絵)	2	1	前	演習	50
			21133	デザイン(絵)	2	1	前	演習	51
			21209	工芸(絵)	2	2	前	演習	52
		彫刻	必修主要	22110	デッサン	1	1	前	実技
22113	彫刻Ⅰ - Ⅰ			5	1	前	実技	54	
22114	彫刻Ⅰ - Ⅱ			7	1	後	実技	58	
22213	彫刻Ⅱ - Ⅰ			6	2	前	実技	61	
22214	彫刻Ⅱ - Ⅱ			6	2	後	実技	64	
22215	構成			1	2	後	実技	67	
22313	彫刻Ⅲ - Ⅰ			6	3	前	実技	73	
22314	鍛造			1	3	前	実技	76	
22315	彫刻Ⅲ - Ⅱ			6	3	後	実技	77	
22316	鑄造			1	3	後	実技	78	
22231	彫刻特論Ⅰ			2	2	通年	講義	80	
22331	彫刻特論Ⅱ			2	3	通年	講義	81	
22291	古美術研究			4	2	後	演習	82	
必修専攻 専門関連	22121			絵画(彫)	2	1	前	演習	83
	22209	デザイン(彫)	2	2	前	演習	84		
	22341	工芸(彫)	2	3	前	演習	85		
	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1~4	前	講義	休講		
選択専攻 専門関連	22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1~4	前	講義	87		
芸術学	必修主要	23110	素描(芸)	2	1	前	演習	88	
		23114	実技研究(絵画)	3	1	後	実技	89	
		23115	実技研究(表現)	2	1	後	実技	92	
		23113	基礎演習	2	1	後	演習	95	
		23217	学外研究	4	2	後	演習	96	
	必修専攻 専門関連	23151	絵画(芸)	2	1	前	演習	98	
		23152	彫刻(芸)	2	1	前	演習	99	
		23153	デザイン(芸)	2	1	前	演習	100	
		23154	工芸(芸)	2	1	前	演習	101	
	選択主要	23421	美学演習Ⅰ	4	3~4	通年	演習	102	
		23422	美学演習Ⅱ	4	3~4	通年	演習	102	
		23423	芸術学演習Ⅰ	4	3~4	通年	演習	103	
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3~4	通年	演習	103	
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3~4	通年	演習	104	
23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3~4	通年	演習	105			
23427	東洋美術史演習Ⅰ	4	3~4	通年	演習	106			
23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3~4	通年	演習	106			

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁	
芸術学	選択主要	23429	西洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	107	
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	107	
		23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	108	
		23271	芸術文化論演習B	2	2～4	前	演習	110	
		23431	語学演習A(英語)	4	2～4	通年	演習	111	
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	113	
		23433	語学演習C(仏語)	4	2～4	通年	演習	114	
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	115	
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	116	
		23436	原典研究B(漢文)	4	2～4	通年	演習	117	
		23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	休講	
		23438	美学特講	2	2～4	前	講義	118	
		23439	芸術学特講	2	2～4	後	講義	119	
		23440	東洋美術史特講	2	2～4	前	講義	120	
		23228	日本美術史特講	2	2～4	後	講義	121	
		23441	西洋美術史特講	2	2～4	後	講義	122	
		23227	比較芸術学特講	2	2～4	後	講義	123	
	選択専攻 専門関連	23330	絵画演習A	2	2～3	前	演習	292	
		23331	絵画演習B	2	2～3	後	演習	293	
		23261	彫刻演習A	2	2～3	前	演習	294	
		23262	彫刻演習B	2	2～3	後	演習	295	
		23334	デザイン演習A	2	2～3	前	演習	296	
		23335	デザイン演習B	2	2～3	後	演習	297	
		23336	工芸演習A	2	2～3	前	演習	298	
	23337	工芸演習B	2	2～3	後	演習	299		
	デザイン	必修主要	24112	デザインⅠ	3	1	前	実技	124
			24113	木工芸基礎	2	1	後	演習	127
24114			立体造形(デ)	2	1	後	演習	128	
24115			素描(デ)	1	1	後	実技	129	
24116			色彩構成	2	1	後	演習	130	
24117			空間構成	2	1	後	演習	131	
24223			デザインⅡ-I	7	2	前	実技	132	
24224			デザインⅡ-II	7	2	後	実技	138	
24343			デザインⅢ-I	7	3	前	実技	144	
24344			デザインⅢ-II	7	3	後	実技	150	
24331		デザイン特別演習	2	3	前	演習	157		
24391		学外研究	4	3	後	演習	158		
必修専攻 専門関連		24121	絵画(デ)	2	1	前	演習	159	
		24123	彫刻(デ)	2	1	前	演習	160	
		24124	工芸(デ)	2	1	前	演習	161	
選択専攻 専門関連		24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	317	
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	318	
	24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	319		
	24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	320		
	24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	321		
	24171	視覚伝達論A(印刷)	2	1～4	前	演習	322		
	24172	視覚伝達論B(映像)	2	1～4	後	演習	323		
	24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	324		
	24184	人間工学	2	1～4	後	講義	休講		
24251	図学	2	1～4	前	演習	325			

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁		
工 芸	必修主要	25112	描写	1	1	前	実技	163		
		25113	色彩	1	1	前	実技	164		
		25114	立体構成	1	1	前	実技	165		
		25101	工芸Ⅰ	7	1	後	実技	168		
		25209	工芸Ⅱ	5	2	前	実技	173		
		25261	立体造形(工)	1	2	前	実技	178		
		25262	版画	1	2	前	実技	179		
		25391	古美術研究	4	3	後	演習	180		
		25392	デザインと素材	1	3	前	実技	181		
		25221	染Ⅰ	7	2	後	実技	182		
		25323	染Ⅱ	13	3	通年	実技	188		
		25231	織Ⅰ	7	2	後	実技	200		
		25332	織Ⅱ	13	3	通年	実技	205		
		25232	繊維科学	2	2	後	講義	221		
		25222	染色化学	2	2	後	講義	222		
		25322	染織特別演習	2	3	後	演習	223		
		25211	陶芸Ⅰ	7	2	後	実技	224		
		25313	陶芸Ⅱ	13	3	通年	実技	229		
		25212	窯業化学	2	2	後	講義	240		
		25312	陶芸特別演習	2	3	通年	演習	241		
		25241	漆芸Ⅰ	7	2	後	実技	242		
		25343	漆芸Ⅱ	13	3	通年	実技	249		
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	264		
		25342	漆芸特別演習	2	3	前	演習	265		
		必修専攻 専門関連		25102	絵画(工)	2	1	前	演習	162
				25103	彫刻(工)	2	1	前	演習	166
				25104	デザイン(工)	2	1	前	演習	167
		選択専攻 専門関連		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	327
			25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	328	
			25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	329	
			25152	装飾論	2	1～4	後	講義	330	
			25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	331	
		25177	色彩論	2	1～4	前	講義	340		

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全専攻対象 (一部専攻除く科目あり)	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	休講
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	87
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	300
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	301
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	302
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	303
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	304
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	305
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	306
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	307
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	308
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	309
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	310
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	311
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	312
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	313
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	314
		24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	317
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	318
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	319
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	320
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	321
		24163	図法及び製図A	2	1～4	前	演習	338
		24164	図法及び製図B	2	1～4	後	演習	339
		24171	視覚伝達論A(印刷)	2	1～4	前	演習	322
		24172	視覚伝達論B(映像)	2	1～4	後	演習	323
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	324
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	休講
		24251	図学	2	1～4	前	演習	325
		24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	326
		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	327
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	328
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	329
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	330
25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	331		
25177	色彩論	2	1～4	前	講義	340		
自由科目	21202	写真演習	2	1～4	後	演習	342	
	24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	343	

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成29年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁	
絵 画	必修主要	21311	日本Ⅲ	14	3	通年	実技	18	
		21412	日本画Ⅳ	14	4	通年	実技	23	
		21321	油画Ⅲ	14	3	通年	実技	35	
		21422	油画Ⅳ	14	4	通年	実技	44	
		21331	絵画特論Ⅱ	2	2	通年	講義	48	
		21291	古美術研究	4	2	後	演習	49	
		21431	西洋建築史概説A	2	1～4	前	講義	267	
	選択専攻 専門関連	21432	日本建築史概説A	2	1～4	後	講義	268	
		21433	ビジュアルデザイン概論	2	1～4	前	講義	269	
		21434	視覚伝達概論A(印刷)	2	1～4	前	演習	270	
		21435	視覚伝達概論B(映像)	2	1～4	後	演習	271	
		21436	陶磁史概説A	2	1～4	前	講義	272	
		21437	染織工芸史概説A	2	1～4	前	講義	273	
		21438	生活造形概論A	2	1～4	後	講義	274	
		21439	装飾概論A	2	1～4	後	講義	275	
	21440	漆芸概論A	2	1～4	後	講義	276		
	彫 刻	必修主要	22312	彫刻Ⅲ	13	3	通年	実技	68
			22412	彫刻Ⅳ	14	4	通年	実技	79
			22331	彫刻特論Ⅱ	2	3	通年	講義	81
専攻専門関連		22208	工芸B	2	3	前	演習	86	
選択専攻 専門関連		22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	休講	
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	87	
		22421	西洋建築史概説B	2	1～4	前	講義	277	
		22422	日本建築史概説B	2	1～4	後	講義	278	
		22423	クラフトデザイン計画概論	2	1～4	後	講義	279	
		22424	プロダクトデザイン概論	2	1～4	後	講義	280	
		22425	環境造形概論	2	1～4	前	講義	281	
		22426	陶磁史概説B	2	1～4	前	講義	282	
		22427	染織工芸史概説B	2	1～4	前	講義	283	
		22428	生活造形概論B	2	1～4	後	講義	284	
		22429	装飾概論B	2	1～4	後	講義	285	
		22430	漆芸概論B	2	1～4	後	講義	286	
		芸 術 学	必修主要	23411	卒業論文	5	4	通年	演習
23421				美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	102
選択主要			23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	102
	23423		芸術学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	103	
	23424		芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	103	
	23425		日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	104	
	23426		日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	105	
	23427		東洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	106	
	23428		東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	106	
	23429		西洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	107	
	23430		西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	107	
	23442		芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	108	
	23431		語学演習A(英語)	4	2～4	通年	演習	111	
	23432		語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	113	
	23433		語学演習C(仏語)	4	2～4	通年	演習	114	
	23434		語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	115	
	23435		原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	116	
	23436		原典研究B(漢文)	4	2～4	通年	演習	117	
	23437		原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	休講	
	23438		美学特講	2	2～4	前	講義	118	
	23439		芸術学特講	2	2～4	後	講義	119	
	23440		東洋美術史特講	2	2～4	前	講義	120	
	23228		日本美術史特講	2	2～4	後	講義	121	
23441	西洋美術史特講	2	2～4	後	講義	122			
23227	比較芸術学特講	2	2～4	後	講義	123			

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成29年度入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁	
芸術学	選択専攻 専門関連	23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	301	
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	302	
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	303	
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	304	
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	305	
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	306	
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	307	
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	308	
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	309	
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	310	
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	311	
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	312	
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	313	
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	314	
		23443	陶磁史概説C	2	1～4	前	講義	287	
		23444	染織工芸史概説C	2	1～4	前	講義	288	
		23445	生活造形概論C	2	1～4	後	講義	289	
		23446	装飾概論C	2	1～4	後	講義	290	
		23447	漆芸概論C	2	1～4	後	講義	291	
		デザイン	必修主要	24342	デザインⅢB	7	3	後	実技
24431	デザインⅣ			15	4	通年	実技	156	
24331	デザイン特別演習			2	3	前	演習	157	
24391	学外研究			4	3	後	演習	158	
24132	西洋建築史			2	1～4	前	講義	317	
選択専攻 専門関連	24133		日本建築史	2	1～4	後	講義	318	
	24153		クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	319	
	24161		プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	320	
	24162		ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	321	
	24171		視覚伝達論A(印刷)	2	1～4	前	演習	322	
	24172		視覚伝達論B(映像)	2	1～4	後	演習	323	
	24181		環境造形論	2	1～4	前	講義	324	
	24182		色彩論	2	1～4	前	講義	340	
	24184		人間工学	2	1～4	後	講義	休講	
	24251		図学	2	1～4	前	演習	325	
	24252		CG基礎	2	2～4	後	演習	326	
	選択共通 専門関連		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	327
			25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	328
			25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	329
			25152	装飾論	2	1～4	後	講義	330
25171		漆芸論	2	1～4	後	講義	331		
工芸	必修主要	25433	染Ⅲ	14	4	通年	実技	197	
		25322	染織特別演習	2	3	後	演習	223	
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	205	
		25434	織Ⅲ	14	4	通年	実技	217	
		25412	陶芸Ⅲ	14	4	通年	実技	237	
		25312	陶芸特別演習	2	3	通年	演習	241	
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	249	
		25442	漆芸Ⅲ	14	4	通年	実技	260	
		25342	漆芸特別演習	2	3	前	演習	265	
		選択専攻 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	327
	25132		染織工芸史	2	1～4	前	講義	328	
	25151		生活造形論	2	1～4	後	講義	329	
	25152		装飾論	2	1～4	後	講義	330	
	25162		図法及び製図	4	1～4	通年	演習	336	
	25171		漆芸論	2	1～4	後	講義	331	
	25172		絵画史概説	2	1～4	後	講義	332	
	25173		彫刻史概説	2	1～4	前	講義	333	
	25174		現代芸術概論A	2	1～4	後	講義	334	
	25175		現代芸術概論B	2	1～4	前	講義	335	
	25176	沖縄美術工芸史概説	2	1～2	後	講義	休講		

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成29年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁		
全専攻対象 (一部専攻除く科目あり)	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	休講		
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	87		
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	300		
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	301		
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	302		
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	303		
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	304		
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	305		
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	306		
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	307		
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	308		
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	309		
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	310		
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	311		
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	312		
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	313		
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	314		
		24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	317		
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	318		
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	319		
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	320		
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	321		
		24171	視覚伝達論A(印刷)	2	1～4	前	演習	322		
		24172	視覚伝達論B(映像)	2	1～4	後	演習	323		
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	324		
		24182	色彩論	2	1～4	前	講義	340		
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	休講		
		24251	図学	2	1～4	前	演習	325		
		24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	326		
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	336		
		自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	342
				24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	343

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目一覧(平成28年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
絵 画	必修主要	21411	日本画Ⅳ	15	4	通年	実技	23
		21421	油画Ⅳ	15	4	通年	実技	44
	選択専攻 専門関連	21431	西洋建築史概説A	2	1～4	前	講義	267
		21432	日本建築史概説A	2	1～4	後	講義	268
		21433	ビジュアルデザイン概論	2	1～4	前	講義	269
		21434	視覚伝達概論A(印刷)	2	1～4	前	演習	270
		21435	視覚伝達概論B(映像)	2	1～4	後	演習	271
		21436	陶磁史概説A	2	1～4	前(集中)	講義	272
		21437	染織工芸史概説A	2	1～4	前	講義	273
		21438	生活造形概論A	2	1～4	後	講義	274
		21439	装飾概論A	2	1～4	後(集中)	講義	275
		21440	漆芸概論A	2	1～4	後	講義	276
彫 刻	必修主要	22411	彫刻Ⅳ	15	4	通年	実技	79
	選択専攻 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	休講
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	87
		22421	西洋建築史概説B	2	1～4	前	講義	277
		22422	日本建築史概説B	2	1～4	後	講義	278
		22423	クラフトデザイン計画概論	2	1～4	後(集中)	講義	279
		22424	プロダクトデザイン概論	2	1～4	後	講義	280
		22425	環境造形概論	2	1～4	前	講義	281
		22426	陶磁史概説B	2	1～4	前(集中)	講義	282
		22427	染織工芸史概説B	2	1～4	前	講義	283
		22428	生活造形概論B	2	1～4	後	講義	284
		22429	装飾概論B	2	1～4	後(集中)	講義	285
22430	漆芸概論B	2	1～4	後	講義	286		
芸 術 学	必修主要	23411	卒業論文	5	4	通年	演習	97
	選択主要	23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	102
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	102
		23423	芸術学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	103
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	103
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	104
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	105
		23427	東洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	106
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	106
		23429	西洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	107
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	107
		23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	108
		23431	語学演習A(英語)	4	2～4	通年	演習	111
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	113
		23433	語学演習C(仏語)	4	2～4	通年	演習	114
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	115
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	116
		23436	原典研究B(漢文)	4	2～4	通年	演習	117
23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	休講		
23438	美学特講	2	2～4	前	講義	118		
23439	芸術学特講	2	2～4	後	講義	119		
23440	東洋美術史特講	2	2～4	前	講義	120		
23228	日本美術史特講	2	2～4	後	講義	121		
23441	西洋美術史特講	2	2～4	後	講義	122		
23227	比較芸術学特講	2	2～4	後	講義	123		

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目一覧(平成28年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
芸術学	選択専攻 専門関連	23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	301
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	302
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	303
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	304
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	305
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	306
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	307
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	308
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	309
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	310
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	311
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	312
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	313
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	314
		23443	陶磁史概説C	2	1～4	前	講義	287
		23444	染織工芸史概説C	2	1～4	前	講義	288
		23445	生活造形概論C	2	1～4	後	講義	289
		23446	装飾概論C	2	1～4	後(集中)	講義	290
		23447	漆芸概論C	2	1～4	後	講義	291
		デザイン	必修主要	24431	デザインIV	15	4	通年
24331	デザイン特別演習			2	3	前	演習	157
24391	学外研究			4	3	後	演習	158
選択専攻 専門関連	24131		建築史	4	1～4	通年	講義	315
	24153		クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	319
	24161		プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	320
	24162		ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	321
	24171		視覚伝達論A(印刷)	2	1～4	前	演習	322
	24172		視覚伝達論B(映像)	2	1～4	後	演習	323
	24181		環境造形論	2	1～4	前	講義	324
	24182		色彩論	2	1～4	前	講義	340
	24184		人間工学	2	1～4	後	講義	休講
	24251		図学	2	1～4	前	演習	325
	24252		CG基礎	2	2～4	後	演習	326
	選択共通 専門関連		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義
25132		染織工芸史	2	1～4	前	講義	328	
25151		生活造形論	2	1～4	後	講義	329	
25152		装飾論	2	1～4	後	講義	330	
25171		漆芸論	2	1～4	後	講義	331	

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目一覧(平成28年度入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁
工芸	必修主要	25433	染Ⅲ	15	4	通年	実技	197
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	205
		25222	染色化学	2	2	後	講義	222
		25322	染織特別演習	2	3	後	演習	223
		25411	陶芸Ⅲ	15	4	通年	実技	237
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	249
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	264
		25342	漆芸特別演習	2	3	前	演習	265
		25391	古美術研究	4	3	後	演習	180
	選択専攻 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	327
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	328
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	329
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	330
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	336
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	331
		25172	絵画史概説	2	1～4	通年	講義	332
		25173	彫刻史概説	2	1～4	前	講義	333
		25174	現代芸術概論A	2	1～4	後	講義	334
	25175	現代芸術概論B	2	1～4	前	講義	335	
	全専攻対象 (一部専攻除く科目あり)	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義
22133			美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	87
22202			金属演習	2	2～4	後	演習	300
23125			芸術心理学	2	1～4	後	講義	301
23126			芸術学	2	1～4	前	講義	302
23135			彫刻史	2	1～4	前	講義	303
23136			デザイン史	2	1～4	前	講義	304
23137			工芸史	2	1～4	前	講義	305
23138			絵画史	2	1～4	後	講義	306
23141			書道史	2	1～4	前	講義	307
23142			現代芸術論A	2	1～4	後	講義	308
23143			現代芸術論B	2	1～4	前	講義	309
23145			一般芸術学	2	1～4	後	講義	310
23146			日本美術史	2	1～4	前	講義	311
23147			東洋美術史	2	1～4	前	講義	312
23148			西洋美術史A	2	1～4	前	講義	313
23149			西洋美術史B	2	1～4	後	講義	314
24131			建築史	4	1～4	通年	講義	315
24153			クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	319
24161			プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	320
24162			ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	321
24171			視覚伝達論A(印刷)	2	1～4	前	演習	322
24172			視覚伝達論B(映像)	2	1～4	後	演習	323
24181			環境造形論	2	1～4	前	講義	324
24182			色彩論	2	1～4	前	講義	340
24184			人間工学	2	1～4	後	講義	休講
24251			図学	2	1～4	前	演習	325
24252			CG基礎	2	2～4	後	演習	326
25162			図法及び製図	4	1～4	通年	演習	336
自由科目	21202	写真演習	2	1～4	後	演習	342	
	24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	343	

令和2年度 美術工芸学部開設授業科目一覧(平成27年度以前入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁
絵画	必修主要	21411	日本画Ⅳ	15	4	通年	実技	23
		21421	油画Ⅳ	15	4	通年	実技	44
工芸	必修主要	25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	205
		25232	繊維科学	2	2	後	講義	221
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	264
		25411	陶芸Ⅲ	15	4	通年	実技	237
		25312	陶芸特別演習	2	3	通年	演習	241
		25322	染織特別演習	2	3	前	演習	223
		25391	古美術研究	4	3	後	演習	180
全専攻共通	選択専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	休講
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	87
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	300
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	301
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	302
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	304
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	305
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	306
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	307
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	308
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	309
		24131	建築史	4	1～4	通年	講義	315
		24153	クラフトデザイン計画	2	2～4	後	講義	319
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	320
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	321
		24171	視覚伝達論A(印刷)	2	1～4	前	演習	322
		24172	視覚伝達論B(映像)	2	1～4	後	演習	323
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	324
		24182	色彩論	2	1～4	後	講義	340
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	休講
		24251	図学	2	1～4	前	演習	325
		24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	326
		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	327
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	328
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	329
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	330
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	336
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	331
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	310
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	311
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	312
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	313
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	314
自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	342
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	343

実務経験のある教員による授業科目（実践的教育を行う授業）

対象専攻等	区分	授業科目名	単位数	授業区分	教員名	職	担当形態	実務経験等	掲載頁	
学部	選択科目 共通専門 関連科目	ビジュアルデザイン概論 ビジュアルデザイン論	2	講義	笹原浩造	准教授	単独	アートディレクター、化粧品会社宣伝部勤務 (1986～2010年)	269 321	
		視覚伝達概論A 視覚伝達論A(印刷)	2	演習	赤嶺雅	教授	単独	グラフィックデザイナー、民間企業(情報通 信機械器具製造業、印刷業)デザイン室勤 務(1986～1992年)	270 322	
		視覚伝達概論B 視覚伝達論B(映像)	2	演習	仲本賢	教授	単独	映像作家	271 323	
		環境造形概論 環境造形論	2	講義	宮里武志	准教授	単独	設計事務所主宰、建築設計事務所等勤務 (1994～2002年)	281 324	
		日本美術史	2	講義	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員(1989～1994年)	311	
		東洋美術史	2	講義	金 恵信	教授	単独	美術批評家	312	
		西洋美術史B	2	講義	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	314	
		CG基礎	2	演習	真喜志康一	非常勤講師	単独	デザイン事務所経営	326	
絵画専攻	必修科目 主要科目	日本画Ⅳ	14	実技	平山英樹	教授	複数	日本画家	23	
					香川亮	准教授		画家		
					関谷理	講師		日本画家		
		油画Ⅳ	14	実技	知花均	教授	複数	版画家	44	
高崎賀朗	教授	画家								
阪田清子	准教授	画家								
彫刻専攻	必修科目 主要科目	彫刻Ⅳ	14	実技	波多野泉	教授	複数	彫刻家	79	
					砂川泰彦	教授		彫刻家		
					河原圭佑	講師		彫刻家		
					長尾恵那	講師		彫刻家		
		彫刻特論Ⅱ	2	講義	波多野泉	教授	オムニバス	彫刻家	81	
					砂川泰彦	教授		彫刻家		
芸術学専攻	選択科目 主要科目	芸術学演習Ⅰ	4	演習	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	103	
		芸術学演習Ⅱ	4	演習	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	103	
		日本美術史演習Ⅰ	4	演習	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員(1989～1994年)	104	
		日本美術史演習Ⅱ	4	演習	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員(1989～1994年)	105	
		東洋美術史演習Ⅰ	4	演習	金 恵信	教授	単独	美術批評家	106	
		東洋美術史演習Ⅱ	4	演習	金 恵信	教授	単独	美術批評家	106	
		芸術学特講	2	講義	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	119	
		東洋美術史特講	2	講義	金 恵信	教授	単独	美術批評家	120	
		日本美術史特講	2	講義	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員(1989～1994年)	121	
		デザイン専攻	必修科目 主要科目	デザインⅢ-I	7	実技	笹原浩造	准教授	複数	アートディレクター、化粧品会社宣伝部勤務 (1986～2010年)
高田浩樹	准教授						単独	デザイン事務所主宰		
又吉浩	准教授						単独	アニメーション作家		
宮里武志	准教授						単独	設計事務所主宰、建築設計事務所等勤務 (1994～2002年)		
赤塚 美穂子	講師						複数	プロダクトデザイナー、コイズミ照明株式会 社 勤務(2006年～2020年)		
(インターンシップ)	複数							インターンシップA・B		
デザインⅢB	7						実技	又吉浩	准教授	単独
				高田浩樹	准教授	単独		デザイン事務所主宰		
				仲本賢	教授	複数		映像作家		
又吉浩	准教授			映像作家						
デザインⅢ-II	7	実技	赤嶺雅	教授	複数	グラフィックデザイナー、民間企業(情報通 信機械器具製造業、印刷業)デザイン室勤 務(1986～1992年)	151 150			
(インターンシップ)	複数	インターンシップC・D								
工芸専攻	必修科目 主要科目	染Ⅲ	14	実技	名護朝和	教授	複数	染色家	197	
					宇良京子	講師		染色家		
		織Ⅲ	14	実技	真栄城興茂	教授	複数	染織家、織工房主宰	217	
					花城美弥子	准教授		染織家		
					久保田寛子	准教授		染織家		
		陶芸Ⅲ	14	実技	山田聡	教授	複数	陶芸家	237	
					島袋克史	講師		陶芸家		
漆芸Ⅲ	14	実技	水上修	教授	複数	漆芸家	260			
			當眞茂	准教授		漆芸家				

專門教育科目

主要科目

專攻專門関連科目

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22110	デッサン	1単位 前期	1	実技	砂川 泰彦 河原 圭佑 早川 信志

■テーマ 人体デッサン

■授業の概要

人体の在り様を形態のある塊として捉え、その動き、繋がりを実際のモデルを使って観察し、鉛筆で描写する。造形表現の基礎となる素描を通して、対象の存在（形態と空間）を把握する確かな観察力と、基礎的な描写力を養う。

■到達目標

- ・ 基礎的な描写力を身につける。
- ・ 対象の形態と空間を把握できる。
- ・ 人体の構造を量塊の構成として捉えることができる。

■授業計画・方法

1. ガイダンス、クロッキー：対象(ヌードモデルの全身)の観察（人体の構造を考える。）
2. クロッキー、デッサン：自然のあり様をフォルム(形態)で捉え、量塊を意識する。
3. デッサン：対象の全体と部分の関係を意識し構図を決める。
4. デッサン：対象を大きなフォルムで捉え、量塊を意識する。
5. デッサン：量塊の構成、連続性によるムーブマン(動勢)を意識する。
6. デッサン：対象の全体と部分の関係、存在する空間を意識する。
7. デッサン：鉛筆の特性を理解し、濃淡からうまれる絵画的表現を理解する。
8. デッサン：プロポーションの違い、位置関係を見直す。
9. デッサン：画面上の全体と部分の関係を意識する。
10. デッサン：観察の重要性を理解し、量塊の構成、連続性によるムーブマン(動勢)を意識する。
11. デッサン：様々な部位が持つ量感、面の成り立ちを意識する。
12. デッサン：鉛筆の濃淡の幅、人体の構造を確認する。
13. デッサン：細部と全体のバランス、量感を意識し観察する。
14. デッサン：作品として高い完成度を目指す。
15. 講評、自己評価、作品記録
定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・ 日頃から素描用具を携帯し、ドローイング、デッサン等を生活の一部とするよう心がけること。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（制作への取組）40%、成果作品（デッサン）60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- テキスト 特になし
- 参考資料 『素描論』（岩田弥富、芸大出版会）、学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22113	彫刻Ⅰ-I	5単位 前期	1	実技	波多野 泉 長尾 恵那 砂川 泰彦 非常勤講師

■テーマ 彫刻の基礎

■授業の概要

石彫実習、塑造基礎、彫刻作品鑑賞を通して、一般的包括的な彫刻表現の概要を学び、彫刻表現に必要な基礎的造形力を養うとともに、彫刻の基本的な技法を修得する。

■到達目標

- ・ 観察を通してデッサン力及び基礎的造形力を身につける。
- ・ 量塊の構成による彫刻の構造を理解する。
- ・ 石彫及び塑造の基本的技能を習得する。

■授業計画・方法

1. 石彫実習1 「貝を彫る」ガイダンス、エスキース粘土塑造制作 (担当：砂川)
2. 石彫実習1 鑿づくり (火造り) (担当：砂川)
3. 石彫実習1 石割り、鑿づくり (火造り) (担当：砂川)
4. 石彫実習1 粗彫り：セリ矢による荒落とし (貝の構造の観察) (担当：砂川)
5. 石彫実習1 粗彫り：鑿による手彫り手法の習得 (担当：砂川)
6. 石彫実習1 スライド及び参考作品鑑賞：日本、アジア、西洋及び琉球王国時代の石造物、彫刻 (担当：砂川)
7. 石彫実習1 細部制作：ビシヤン、刃トンボの扱い方の習得 (担当：砂川)
8. 石彫実習1 細部制作：彫刻作品における全体と部分の関係を理解する。(担当：砂川)
9. 石彫実習1 磨き・仕上げ：作品を深く見つめ、完成度を高める。(担当：砂川)
10. 石彫実習1 講評、自己評価 (担当：砂川)
11. 塑造基礎1 デッサン、クロッキー、粘土練り (担当：波多野・長尾)
12. 塑造基礎1 頭像心棒作り、粘土粗付 (担当：波多野・長尾)
13. 塑造基礎1 塑造制作：量塊による構成 (連続性によるムーブマン(動勢)を理解する。)(担当：波多野・長尾)
14. 塑造基礎1 スライド及び参考作品鑑賞：近代以降の日本、西洋の塑造彫刻を中心に鑑賞 (担当：波多野・長尾)
15. 塑造基礎1 石膏頭像：石膏取り(雌型、雄型) (担当：波多野・長尾)
16. 塑造基礎2 デッサン、クロッキー、テラコッタ粘土練り (担当：波多野・長尾)
17. 塑造基礎2 テラコッタ頭像心棒作り、粘土粗付 (担当：波多野・長尾)
18. 塑造基礎2 テラコッタ塑造直作り (量塊による構成、ムーブマン(動勢)の理解を深める。)(担当：波多野・長尾)
19. 塑造基礎2 テラコッタ頭像：石膏取り(寄せ型：石膏込め型) (担当：波多野・長尾)
20. 塑造基礎1～2 講評、自己評価 (担当：波多野・長尾)

学部生展 (成果発表展)：全体講評、自己評価

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・ 各実習終了後には指定された場所に作品を提出展示し、自己評価を含めて講評会を行う。
- ・ 講評会の後、作品の写真等による記録作成を各自で行い、ドローイング・試作・課外制作等の記録もあわせて年度末にポートフォリオとして提出する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点 (制作への取組) 40%、成果作品 60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度は評価する。

■教科書・参考文献(資料)等

- テキスト プリント「石膏取り」
- 参考文献 A. Coliva “Bernini Scultore. La Tecnica Esecutiva” De Luca Editori d'Arte、吉村作治(監修)『カイロ博物館 古代エジプトの秘宝』(株)ニュートンプレス、『世界美術大全集』小学館
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

【実習名】 石彫実習1

【期間】 4月7日(火)～5月14日(木)

【教室】 石彫室及び石彫場(彫刻棟3)

【担当】 砂川 泰彦

【課題】 「貝」を彫る

【授業の概要】(テーマ) 彫刻の量塊と構造 「貝を彫る」

海に生息する貝をモチーフに、貝が持つ造形の美しさを観察して、基礎的な彫刻の量塊と構造について学ぶ。併せて、対象の観察を通してデッサン力を身につける。また、沖縄の島々を形成し、古来築城など建築材として用いられている琉球石灰岩を、伝統的な石彫技法を用いて彫ることで、沖縄の石造文化・自然歴史を知る端緒とする。

【到達目標】

- ・ 彫刻における量塊と構造を理解する。
- ・ 彫刻作品における全体と部分の関係を理解する。
- ・ 彫刻におけるモデリング modeling とカービング carving の特性を理解する。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、構想：貝をモチーフにデッサンを描き構想を練る。
2. エスキース粘土制作：粘土素材の可塑性から生まれる貝の持つ造形の美しさや構造を感じ取る。
3. 鑿づくり(火造り)：石鑿づくりをとおして日本の鍛冶技法を体験する。鞆の構造、扱い方を学ぶ。
4. 鑿づくり(火造り)：石鑿の成形から焼き入れなどの一連の鍛冶技法を体験する。
5. 石割り：大きな原石を電動ドリルで割る。電動ドリルやセリ矢の正しい使い方を理解する。
6. 粗彫り：貝の構造を観察し、電動ドリル、セリ矢で粗落とす。
7. 粗彫り：コヤスケや鑿で石を彫る手法を習得する。道具の正しい使い方を理解する。
8. 粗彫り：鑿で石を彫る手法を習得する。
9. 粗彫り：彫刻作品における全体と部分の関係を意識する。
10. スライド及び参考作品鑑賞：日本、アジア、西洋の彫刻及び琉球王国時代の石造物、彫刻作品の鑑賞。
11. 細部制作：ビシャン、刃トンボの扱い方を学ぶ。彫刻作品における全体と部分の関係を理解する。
12. 細部制作：ビシャン、刃トンボを使い完成を目指す。彫刻表現におけるカービングの特性を理解する。
13. 磨き：砥石によって研磨され、変化する素材(琉球石灰岩)の美しさを確認し、完成度を高める。
14. 磨き・仕上げ：作品を深く見つめ、完成度を高める。
15. 講評、自己評価とディスカッション、作品記録、後片付け

【成果物】 石彫作品1点

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点(制作への取組)40%、成果作品(石彫)60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

- 参考資料 学生参考作品

【実習名】 塑造基礎1

【期間】 6月16日(火)～7月6日(月)

【教室】 塑造実習室1 (彫刻棟1)

【担当】 波多野 泉、長尾 恵那、浦上 桜 (非)

【課題】 モデルを使って塑造による頭部制作を行い、石膏像とする。

【授業の概要】(テーマ) 「頭像」彫刻の量塊と構造

人物の頭部を実際のモデルを使って観察し、塑造技法(modeling)により制作を行い、「石膏取り」によって石膏作品を完成させる。塑造による作品制作、彫刻作品鑑賞を通して基礎的かつ一般的包括的な彫刻表現の概要を学ぶ。あわせて、石彫などカービング carving 技法との違いを理解する。

【到達目標】

- ・ 彫刻における量塊と構造を理解する。
- ・ 彫刻作品における全体と部分の関係を理解する。
- ・ 彫刻におけるモデリング modeling とカービング carving の特性を理解する。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、デッサン：対象(モデルの頭部)の観察、心棒の構造を考える。
2. デッサン、心棒制作：自然のあり様をフォルム(形態)で捉え、量塊を意識する。
3. デッサン、粘土練り：対象の全体と部分の関係を意識する。
4. 塑造、粘土粗付け：対象を大きなフォルムで捉え、量塊を意識する。
5. 塑造：量塊による構成、連続性によるムーブマン(動勢)を意識する。
6. 塑造：対象の全体と部分の関係を意識する。
7. 塑造：粘土素材の可塑性を活かし細部まで試作を重ね、モデリングの特性を理解する。
8. スライド及び参考作品鑑賞：近代以降の日本、西洋の塑造彫刻を中心に鑑賞
9. 塑造：彫刻作品における全体と部分の関係を意識する。
10. 塑造：観察による表現における対象と作品の関係を理解する。
11. 石膏取り(雌型制作)：切金打ち、石膏振りかけ、補強入れ、石膏塗り込み
12. 石膏取り(雌型制作)：石膏塗り込み、粘土搔き出し、型乾燥
13. 石膏取り(雄型制作)：離型剤塗布、石膏流し込み、補強(スタッフ貼り込み)
14. 石膏取り：雌型割り出し、修整、石膏直付け(石膏の特性と扱い方を理解する。)
15. 講評、自己評価とディスカッション、作品記録、後片付け

【成果物】 石膏頭像

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点(制作への取組)40%、成果作品(石膏像)60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

- テキスト プリント「石膏取り」
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

【実習名】 塑造基礎2

【期間】 7月7日(火)～29日(水)

【教室】 塑造実習室1 (彫刻棟1)

【担当】 波多野 泉、長尾 恵那、浦上 桜 (非)

【課題】 モデルを使って塑造による頭部制作を行い、テラコッタ像とする。

【授業の概要】(テーマ) 「頭像」彫刻の量塊と構造

人物の頭部を実際のモデルを使って観察し、塑造技法(modeling)により制作を行い、石膏取りの後、込め型技法によりテラコッタ像作品を完成させる。塑造による作品制作、彫刻作品鑑賞を通して基礎的かつ一般的包括的な彫刻表現の概要を学ぶ。あわせて、石彫などカービング carving 技法との違いを理解する。

【到達目標】

- ・ 彫刻における量塊と構造を理解する。
- ・ 彫刻作品における全体と部分の関係を理解する。
- ・ 彫刻におけるモデリング modeling とカービング carving の特性を理解する。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、デッサン：対象(モデルの頭部)の観察、心棒の構造を考える。
2. デッサン、心棒制作：自然のあり様をフォルム(形態)で捉え、量塊を意識する。
3. デッサン、粘土練り：対象の全体と部分の関係を意識する。
4. 塑造、粘土粗付け：対象を大きなフォルムで捉え、量塊を意識する。
5. 塑造：量塊による構成、連続性によるムーブマン(動勢)を意識する。
6. 塑造：対象の全体と部分の関係を意識する。
7. 塑造：粘土素材の可塑性を活かし細部まで試作を重ね、モデリングの特性を理解する。
8. スライド及び参考作品鑑賞：近代以降の日本、西洋の塑造彫刻を中心に鑑賞
9. 塑造：彫刻作品における全体と部分の関係を意識する。
10. 塑造：観察による表現における対象と作品の関係を理解する。
11. 石膏取り(寄せ型制作)：切金打ち、石膏振りかけ、補強入れ、石膏塗り込み
12. 石膏取り(寄せ型制作)：石膏塗り込み、粘土掻き出し
13. テラコッタ制作(型込め)：雌型(寄せ型)にテラコッタ粘土型込め
14. テラコッタ制作(型外し)：雌型を外し粘土乾燥(後日焼成)
15. 講評、自己評価とディスカッション、作品記録、後片付け

【成果物】 テラコッタ頭像

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点(制作への取組)40%、成果作品(テラコッタ)60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献(作品)等】

- テキスト プリント「石膏取り」
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22114	彫刻Ⅰ-Ⅱ	7単位 後期	1	実技	波多野 泉 非常勤講師 長尾 恵那

■テーマ 彫刻の基礎

■授業の概要

彫刻Ⅰ-Ⅰの実習経験を踏まえ、木彫実習、塑造基礎、彫刻作品鑑賞を通して、一般的包括的な彫刻表現の概要を学び、彫刻表現に必要な基礎的造形力を養うとともに、彫刻の基本的な技法を習得する。

■到達目標

- ・ 観察を通してデッサン力及び基礎的造形力を身につける。
- ・ 彫刻の量塊と構造について理解する。
- ・ 木彫及び塑造の基本的技能を習得する。

■授業計画・方法

1. 木彫実習1 (照葉樹の葉)：ガイドダンス、道具作り、鑿研ぎ (担当：長尾)
2. 木彫実習1 鑿研ぎ、木取り (担当：長尾)
3. 木彫実習1 木取り～粗彫り：大鋸、両刃鋸の使い方習得、取り扱いの理解 (担当：長尾)
4. 木彫実習1 粗彫り：鑿の使い方習得 (担当：長尾)
5. 木彫実習1 こなし：全体と部分の関係の理解 (担当：長尾)
6. 木彫実習1 小造り：鑿の扱い方習得、道具の管理方法 (手入れ) の理解 (担当：長尾)
7. 木彫実習1 仕上げ：作品の密度 (担当：長尾)
8. 木彫実習1 着彩、仕上げ：胡粉等 (担当：長尾)
9. 木彫実習1 講評、自己評価 (担当：長尾)
10. 塑造実習1 (等身立像)：人体クローキー、デッサン、心棒制作 (担当：波多野)
11. 塑造実習1 デッサン、心棒制作、粘土練り (担当：波多野)
12. 塑造実習1 デッサン、粘土粗付け (担当：波多野)
13. 塑造実習1 塑造制作：重心と動勢 (担当：波多野)
14. 塑造実習1 塑造制作：量塊の構築 (担当：波多野)
15. 塑造実習1 塑造制作：全体の構造 (担当：波多野)
16. 塑造実習1 塑造制作：全体と部分 (担当：波多野)
17. 石膏取り実習：雌型・雄型 (担当：波多野)
18. 塑造実習1 講評、自己評価 (担当：波多野)

成果発表展：全体講評

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・ 各実習終了後には指定された場所に作品を提出展示し、自己評価を含めて講評会を行う。
- ・ 講評会の後、作品の写真等による記録作成を各自で行い、ドローイング・試作・課外制作等の記録もあわせて年度末にポートフォリオとして提出する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点 (制作への取組) 40%、成果作品 60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

■教科書・参考文献 (資料) 等

- テキスト プリント「石膏取り」
- 参考文献 小原二郎『木の文化』鹿島出版会、Marino Manini『MARINO MARINI』Edi-Albra
- 参考資料 学生参考作品

【実習名】 木彫実習1

【期間】 10月1日(月)～11月23日(金)

【教室】 木彫室 (彫刻棟2)

【担当】 長尾 恵那

【課題】 沖縄に自生する照葉樹 (常緑広葉樹) の葉

【授業の概要】 (テーマ) 木彫技法の習得 (基礎編)

沖縄に自生する照葉樹(常緑広葉樹)の葉をモチーフにして、樟材(約60×30×10cm)を彫り、着彩して作品とする。

【学習目標】

- ・ 木彫素材と道具の特性を理解し、木彫の基本的技能を習得する。
- ・ 一定の完成度 (技術力) のある作品を制作できる。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、構想計画、道具づくり：冠(かつら)仕込み
2. 鑿研ぎ：平鑿裏出し・裏押し、平鑿研ぎ 表 (#800・#1000・#1200・仕上砥) 裏 (仕上砥)
3. 鑿研ぎ：丸鑿研ぎ 内 (棒砥石・溝砥石) 玄能柄挿げ
4. 原木胴割り：大鋸縦挽き (大鋸の使い方習得)
5. 木取り：大きな面の把握 (大鋸・両刃鋸の使い方、素材 (樟) の特性の理解)
6. 粗彫り：大きな形態の把握 (鋸と鑿を的確に使う)
7. 粗彫り：量塊と構築の理解 (道具の手入れ、管理)
8. こなし：全体と部分の関係確認 (鑿使い習得)
9. こなし：彫り進める。(作品構想の確認)
10. こなし：作品における全体と部分の関係の理解
11. 小造り：全体と部分の関係を理解する。
12. 小造り：細部、作品の密度、(素材の特性を理解する。)
13. 仕上げ：刃物の扱い方、研ぎ方の技術を高める。
14. 着彩・仕上げ：胡粉等を使用し、完成度を高める。
15. 講評、作品記録、後片付け
成果展にて発表する。 全体講評

【成果物】 木彫作品

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点 (制作への取組) 40%、成果作品 (木彫) 60%による総合評価。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献 (資料) 等】

- 参考文献 『木の文化』 (小原二郎, 鹿島出版会)
- 参考資料 学生参考作品

- 【実習名】 塑造実習1、石膏取り実習
 【期間】 11月26日(月)～1月31日(木)
 【教室】 塑造室3 (彫刻棟1-1階)
 【担当】 波多野 泉、井野 雅文(非/石膏取り)
 【課題】 等身塑造 (全身立像)
 【授業の概要】 (テーマ)人体塑造

自然のひとつである人体を、実際のモデルを使って観察し制作することを通して、人体彫刻の基本要素としての量塊と構造、ムーブマン(動勢)を理解し、全体と細部の調和の取れた作品を完成させる。また、「人間」を彫刻で表現することについて考える端緒とする。

【到達目標】

- ・ 観察を通してデッサン力及び基礎的造形力を身につける。
- ・ 人体彫刻の基本要素としての量塊と構造を理解する。
- ・ 塑造の基本的技能を習得する。
- ・ 石膏取りの基本的技能を習得する。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、クロッキー：モデルの観察、ポーズの選定、心棒の構想
2. デッサン、心棒制作：自然のあり様をフォルム(形態)で捉え、量塊、ムーブマンを理解する。
3. デッサン、粘土練り：対象の全体と部分の関係を理解する。
4. 塑造、粘土粗付け：対象に大きなフォルムを発見し、人体を量塊の構築、ムーブマンで捉える。
5. 塑造：量塊による構成、連続性によるムーブマンを理解する。
6. 塑造：対象の全体と部分の関係を意識する。
7. 塑造：粘土素材の可塑性を活かし細部まで試作を重ね、モデリングの特性を理解する。
8. スライド及び参考作品鑑賞と考察：近代以降の日本、西洋の塑造彫刻を中心に
9. 塑造：作品における全体と部分の関係を理解する。
10. 塑造：観察による表現における対象と作品の関係を理解する。
11. 石膏取り(雌型)：切金打ち、石膏振りかけ、補強入れ、石膏塗り込み
12. 石膏取り(雌型)：石膏塗り込み、粘土掻き出し
13. 石膏取り(雄型)：離型剤塗布、石膏流し込み、補強(スタッフ貼り込み)
14. 石膏取り(雄型)：雌型割り出し、修整(石膏の特性と扱い方を理解する。)
15. 講評、自己評価とディスカッション、作品記録、後片付け
 成果展にて発表する。 全体講評

【成果物】 等身石膏像

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点(制作への取組)40%、成果作品(石膏像)60%による総合評価。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
 作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

- テキスト プリント「石膏取り」、Marino Manini『MARINO MARINI』 Edi-Albra
- 参考資料 学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22213	彫刻Ⅱ－Ⅰ	6単位 前年	2	実技	波多野 泉 長尾 恵那

■テーマ 彫刻の基礎

■授業の概要

自然観察による塑造制作実習を通して基礎的な造形力を養う。また、木彫実習において、与えられたテーマを基に発想を広げ、彫刻素材の特性を理解し課題制作を行う。その過程で彫刻表現に必要な基礎的な造形力を養い、実材制作の基本的な技能の修練のなかで、素材・技法への自己の適性を探る。

■到達目標

- ・ 課題制作を通してデッサン力及び基礎的な造形力を身につける。
- ・ 木彫、塑造の基本的技能を習得し、彫刻素材の特性の理解を深める。
- ・ 課題テーマの中で発想を広げ構想し、制作を展開できる。

■授業計画・方法

1. 木彫実習2 (木彫)：ガイダンス、作品構想(実物大ドローイング・デッサン等)、道具作り、鑿研ぎ(担当：長尾)
2. 木彫実習2 鑿研ぎ、原木胴割り、木取り(担当：長尾)
3. 木彫実習2 粗彫り：大きな構成による粗彫り。鑿で木を彫る手法、各種工具の使い方を習得する。(担当：長尾)
4. 木彫実習2 こなし：全体と部分の関係、彫刻における量塊と構造を理解する。(担当：長尾)
5. 木彫実習2 細部の制作：素材の特性の理解(担当：長尾)
6. 木彫実習2 細部の制作：彫刻刀の扱い方、研ぎ方の技術を高める。(担当：長尾)
7. 木彫実習2 着彩・仕上げ(担当：長尾)
8. 木彫実習2 講評、自己評価とディスカッション、作品記録(担当：長尾)
9. 塑造実習2 (等身像)：ガイダンス、人体クロッキー、デッサン：対象の観察、心棒の構造(担当：波多野)
10. 塑造実習2 デッサン、心棒制作：フォルム(形態)のある量塊と構造の発見(担当：波多野)
11. 塑造実習2 粘土粗付け(担当：波多野)
12. 塑造実習2 スライド及び参考作品鑑賞：近代以降の日本、西洋の塑造彫刻を中心に鑑賞(担当：波多野)
13. 塑造実習2 観察による表現(対象と作品の関係の理解)(担当：波多野)
14. 塑造実習2 石膏雌型取り実習(担当：波多野)
15. 塑造実習2 ポリ取り実習(担当：波多野)
16. 塑造実習2 講評、自己評価とディスカッション、作品記録(担当：波多野)

学部生展(成果発表展)：全体講評

■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

- ・ 各実習終了後には指定された場所に作品を提出展示し、自己評価を含めて講評会を行う。
- ・ 講評会の後、作品の写真等による記録作成を各自で行い、ドローイング・試作・課外制作等の記録もあわせて年度末にポートフォリオとして提出する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点(制作への取組)40%、成果作品60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

■教科書・参考文献(資料)等

- テキスト プリント「石膏取り」
- 参考文献 西岡常一、小原二郎『法隆寺を支えた木』NHK出版、小原二郎『木の文化』鹿島出版会、『MARINO MARINI』Edi-Albra
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

【実習名】 木彫実習2

【期間】 4月7日(火)～5月22日(金)

【教室】 木彫室(彫刻棟2)

【担当】 長尾 恵那

【課題】 「生(LIVE)」をテーマにして自由な発想で作品構想を練る。素材は樟原木 180×径60 cm×1/4を基準サイズとする。

【授業の概要】(テーマ) 木彫技法の習得(中級編)

- ・1年前期木彫(木彫技法基礎篇)に続き中級篇として、木彫材料・道具の取り扱いについて学ぶ。
- ・「木」に対する日本の伝統意識を考察しながら、木彫における彫刻表現の可能性を探る。
- ・テーマを咀嚼しながら自己表現の幅の拡張を目指す。

【到達目標】

- ・彫刻素材の特性を理解し、木彫の基本的技能を習得する。
- ・内容(芸術性)のある作品を制作できる。
- ・一定の完成度(技術力)のある作品を制作できる。
- ・課題テーマの中で発想を広げ制作を展開できる。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、作品構想発表(実物大ドローイング・デッサン・マケット)
2. 作品構想：一人一人の構想に合わせて制作の進め方を指示する。
3. 原木搬入、鋸引き：原木胴割り(縦向き)
4. 木取り：大鋸の正しい使い方を理解する。樟材の特性を理解する。
5. 粗彫り：大きな構成で荒彫りをする。チェーンソーの使い方を習得する。
6. 荒彫り：電気木工ドリルや、道具等の正しい使い方を理解する。
7. 荒彫り：鑿や工具の扱い方や手入れ、保管を理解する。
8. こなし：鑿で木を彫る手法を理解、習得する。作品構想の確認。
9. こなし：作品における全体と部分の関係を意識する。
10. こなし：彫刻における量塊と構築性を理解する
11. 細部を制作：彫刻刀の扱い方を学ぶ。彫刻作品における全体と部分の関係を理解する。
12. 細部を制作：素材の特性を知り、彫り進める。
13. 細部を制作：彫刻刀の扱い方、研ぎ方の技術を高める。
14. 着彩・仕上げ：胡粉・他を使用し、完成度を高める。
15. 講評、作品記録、掃除

【成果物】 ドローイング、マケット、木彫作品1点、レポート(制作意図等)

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点(制作への取組)30%、成果作品(木彫)70%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

- 参考文献 『法隆寺を支えた木』(西岡常一、小原二郎、NHK出版)、『木の文化』(小原二郎、鹿島出版会)

【実習名】 塑造基礎2、ポリ取り実習

【期間】 5月25日(月)～7月7日(火) 11月9日(月)～11月13日(金)

【教室】 塑造室3、塑造室1 (彫刻棟1-1階)

【担当】 波多野 泉、浦上 桜(非)

【課題】 人体塑造 (1/2 等身像)

【授業の概要】 (テーマ) 人体塑造

- ・ 実際のモデルを観察し人体デッサンと塑造による人体制作を行い、石膏型取りの後、FRP 像とする
- ・ 自然のひとつである人体を観察し制作することを通して、人体彫刻の基本要素としての量塊と構造、ムーブマン(動勢)を理解し、全体と細部の調和の取れた作品を完成させる。
- ・ 「人間」を彫刻で表現することについて考える。

【到達目標】

- ・ 観察を通してデッサン力及び基礎的造形力を身につける。
- ・ 人体彫刻の基本要素としての量塊と構造を理解する。
- ・ 可塑性材料の特性を理解し、塑造の基本的技能を習得する。
- ・ 石膏取り及びFRP 制作の基本的技能を習得する。

【授業計画・方法】

1. 人体クロッキー、デッサン：対象の観察、心棒の構造
2. デッサン、心棒制作：フォルム(形態)のある量塊と構造の発見
3. デッサン、粘土練り：対象の全体と部分の関係
4. 塑造、粘土粗付け：対象を大きなフォルムで捉え、量塊を意識する。
5. 塑造：量塊による構成、連続性によるムーブマン(動勢)を意識する。
6. 塑造：対象の全体と部分の関係を意識する。
7. 塑造：粘土素材の可塑性を活かし細部まで試作を重ね、モデリングの特性を理解する。
8. スライド及び参考作品鑑賞：近代以降の日本、西洋の塑造彫刻を中心に鑑賞
9. 塑造：彫刻作品における全体と部分の関係を意識する。
10. 塑造：観察による表現における対象と作品の関係を理解する。
11. 石膏取り(雌型制作)：切金打ち、石膏振りかけ、補強入れ、石膏塗り込み、石膏塗り込み、粘土搔き出し
12. 石膏取り(雄型制作)：離型剤塗布、石膏流し込み、雌型割り出し、修正 (石膏の特性と扱い方を理解する。)
13. ポリ取り実習：離型剤塗布、FRP 一層、ガラスマット、FRP 塗り込み
14. ポリ取り実習：雌型割り出し、修整、着色
15. 講評、自己評価とディスカッション、作品記録、後片付け

【成果物】 FRP 人体像1体、人体デッサン1枚 (木炭紙大)、クロッキー (1冊以上)

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点 (制作への取組) 40%、成果作品 (FPR 像) 60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

- テキスト プリント「石膏取り」
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22214	彫刻Ⅱ-Ⅱ	6単位 後期	2	実技	砂川 泰彦 河原 圭佑

■テーマ 彫刻の基礎

■授業の概要

金属、石彫実習において、与えられたテーマを基に発想を広げ、彫刻素材の特性を理解し課題制作を行う。その過程で彫刻表現に必要な基礎的造形力を養い、実材制作の基本的な技能の修練のなかで、素材・技法への自己の適性を探る。

■到達目標

- ・ 課題制作を通してデッサン力及び基礎的造形力を身につける。
- ・ 金属制作、石彫の基本的技能を習得し、彫刻素材の特性の理解を深める。
- ・ 課題テーマのなかで発想を広げ構想し、制作を展開できる。

■授業計画・方法

1. 金属実習1 作品の構想 (担当：河原)
2. 金属実習1 溶接技能講習 (担当：河原)
3. 金属実習1 溶断、溶接の基本技術の習得 (担当：河原)
4. 金属実習1 制作：金属彫刻における構造と重心、バランスの関係を理解する。(担当：河原)
5. 金属実習1 制作、スライド及び参考作品鑑賞 -- 近代以降の日本、欧米の金属彫刻を中心に鑑賞 (担当：河原)
6. 金属実習1 制作：溶接・溶断・切断・研磨等の加工技術、鉄の特性を理解する。(担当：河原)
7. 金属実習1 仕上げ：腐蝕・着色(サビ付け、黒鉛付け、研磨による磨き) (担当：河原)
8. 金属実習1 講評、自己評価とディスカッション、作品記録 (担当：河原)
9. 石彫実習2 道具作り、石割り (担当：砂川)
10. 石彫実習2 粗彫り、ガンダーラ仏頭等の鑑賞 (担当：砂川)
11. 石彫実習2 粗彫り：電動工具、セリ矢の正しい使い方を理解する。(担当：砂川)
12. 石彫実習2 粗彫り：コヤスケ、鑿の扱いを理解する。(担当：砂川)
13. 石彫実習2 スライド及び参考作品鑑賞：日本、アジア、西洋及び琉球王国時代の石造物、彫刻 (担当：砂川)
14. 石彫実習2 細部：ビシャン、刃トンボの扱いを習得。カービングの特性を理解する。(担当：砂川)
15. 石彫実習2 仕上げ：磨き等、彫刻作品における全体と部分の関係を理解する。(担当：砂川)
16. 石彫実習2 講評、自己評価とディスカッション、作品記録 (担当：砂川)

学部生展(成果発表展)：全体講評

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・ 各実習終了後には指定された場所に作品を提出展示し、自己評価を含めて講評会を行う。
- ・ 講評会の後、作品の写真等による記録作成を各自で行い、ドローイング・試作・課外制作等の記録もあわせて年度末にポートフォリオとして提出する。

■成績評価の方法・基準

- **方法** 平常点(制作への取組)40%、成果作品60%による総合評価
- **基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

■教科書・参考文献(資料)等

- **教科書** 厚生労働省安全課編『アーク溶接等作業の安全』中央労働災害防止協会(入手方法は指示する。)
- **参考文献** A. Coliva “Bernini Scultore. La Tecnica Esecutiva” De Luca Editori d’Arte
大系世界の美術第3巻 エジプト美術、パキスタン・ガンダーラ美術展図録 主催 国立国際美術館
- **参考資料** 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

【実習名】 金属実習1

【期間】 10月12日(月)～11月6日(金)

【教室】 金属工房(彫刻棟2)、金属実習室(彫刻棟3)

【担当】 河原 圭佑、吉田 香世(非)

【課題】 「昆虫」の制作

【授業の概要】(テーマ) 「昆虫」を鋼材(鉄)で表現する。

- ・ 鋼材(鉄)の加工技術において、金属素材や精密機械工具の使用方法について学ぶ。
- ・ 自由な発想でテーマ設定し、素材と表現との関連性へ認識を深め、計画の構想から実践を通して独創的な作品制作に取り組む。
- ・ 作品についてのディスカッションを適宜全体で行い、作品制作過程における個々の問題点などを論じ合う。

【到達目標】

- ・ 鋼材(鉄)の特性を理解し、溶接・溶断・切断・研磨・鍛造等の金属造形の基本的な技法を習得する。
- ・ ガス、アーク溶接や大型工作機械の操作など金属工房機材の使用における安全知識を身につける。
- ・ テーマをもとに発想を広げ、素材の特性を活かし制作することができる。
- ・ 課題制作におけるプレゼンテーションや講評会での言語によるコミュニケーション能力を高める。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、ドローイング - 昆虫をモチーフとして自由に構造を考える。
 2. ドローイング、プレゼンテーション - ドローイングから構築した昆虫のイメージを発表する。
 3. 鋼材(鉄)加工/溶接 - 溶接技術を習得し、鉄を溶接しながら対象の構成を意識する。
 4. 鋼材(鉄)加工/溶断 - 溶断技術を習得し、鉄を溶断しながら対象の量塊を意識する。
 5. 鋼材(鉄)加工/精密機械工具および大型工作機械 - 作業の効率化を図るための確かな機械を識別する。
 6. 溶接技能講習 - 金属造形の高度な技法を習得するとともに金属工房機材の使用における安全知識を身につける。
 7. 制作 - 制作対象のイメージに合う鋼材(鉄)を探求する。
 8. 制作 - 鋼材(鉄)の選定、作品サイズを決定する。
 9. 制作 - 溶接・溶断・切断・研磨・鍛造等の加工技術を駆使して、鉄の特性を理解する。
 10. 制作 - 金属彫刻における構造と重心、バランスの関係を意識する。
 11. 制作 - ドローイングを確認し、表現における対象と作品の関係を理解する。
 12. 制作/スライド及び参考作品鑑賞 - 近代以降の日本、欧米の金属彫刻を中心に鑑賞
 13. 制作 - 実践を通して独創的な鉄の表現や作品の構成を意識する。
 14. 制作 - 腐蝕・着色作業(サビ付け、黒鉛付け、研磨による磨き)
 15. 講評、自己評価とディスカッション、作品記録、掃除
- ※ 「溶接技能講習」を必ず受講すること。詳細は授業中に教示する。

【成果物】 ドローイング1点、課題作品1点

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点(制作への取組)40%、成果作品(ドローイング1点、課題作品1点)60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

- 教科書 『アーク溶接等作業の安全』厚生労働省安全課編(中央労働災害防止協会) (入手方法は指示する。)
- テキスト プリント「鍛造の金属造形の技法」
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

【実習名】 石彫実習2

【期間】 11月16日(月)～1月29日(金)

【教室】 石彫室及び石彫場(彫刻棟3)

【担当】 砂川 泰彦

【課題】 友人の頭部

【授業の概要】(テーマ)

- ・ 硬質石材(久米島安山岩)を使用してヒトの頭像作品を制作する。
- ・ 人体頭部の骨格や構成をよく観察し、面・量感・構造などの彫刻要素の理解を目指す。
- ・ 石彫で使用する石鑿、セトウなどの道具作りと荒彫りから仕上げまでの工程を学び、石彫技法の習得を目指す。

【到達目標】

- ・ 観察を通してデッサン力及び基礎的造形力を身につける。
- ・ 具象彫刻の基本要素としての量塊と構造を理解する。
- ・ 石彫の基本的技能を習得する。

【授業計画・方法】

1. 課題説明、原石割り：コンプレッサーを使ったエアーツールドリル、セリ矢の使い方を学ぶ。
2. 鍛冶(鑿作り)：石鑿づくりをとおして日本の鍛冶技法を体験する。鞆の構造、扱い方を学ぶ。
3. 鍛冶(鑿作り)、マケット制作：石鑿の成形から焼き入れなどの一連の鍛冶技法を習得する。
4. 石彫作品鑑賞：ガンダーラ彫刻、円覚寺放生橋、玉陵の見学
5. 粗彫り：大きな原石を電動ドリルで割る。電動ドリルやセリ矢の正しい使い方を理解する。
6. 粗彫り：粘土エスキースを基に電動ドリルで足の持つ大きな形を割る。
7. 粗彫り：コヤスケヤ鑿で石を彫る手法を理解、習得する。道具の正しい使い方を理解する。
8. 粗彫り：鑿で石を彫る手法を理解、習得する。作品の構想の確認。
9. 粗彫り：彫刻作品における全体と部分の関係を意識する。
10. スライド及び参考作品鑑賞：日本、アジア、西洋の彫刻及び琉球王国時代の石造物、彫刻作品の鑑賞。
11. 細部制作：ビシャン、刃トンボの扱い方を学ぶ。彫刻作品における全体と部分の関係を理解する。
12. 細部制作：ビシャン、刃トンボを使い完成を目指す。彫刻表現におけるカービングの特性を理解する。
13. 細部制作：粗砥石によって研磨され、変化する素材(久米島安山岩)の美しさを確認し、完成度を高める。
14. 磨き・仕上げ：作品を深く見つめ、完成度を高める。
15. 講評、自己評価とディスカッション、作品記録、掃除

【成果物】 ドローイング、石彫作品1点

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点(制作への取組)40%、成果作品(石彫)60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

- 参考文献 A. Coliva “Bernini Scultore. La Tecnica Esecutiva” De Luca Editori d’Arte
大系世界の美術第3巻 エジプト美術、パキスタン・ガンダーラ美術展図録 主催 国立国際美術館
- 参考資料 学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22215	構成	1単位 後期	2	実技	河原 圭佑

■テーマ 立体構成

■授業の概要

金属素材（鉄）を用いて立体構成を行う。単純な要素を用いて構成デザインする中で、形体や色彩、材質などの効果的な使い方を考え、構造や機能を工夫して美的秩序を意図した立体の構成表現能力を高める。その上で、造形芸術を成立させる形体の性質と空間に果たす視覚的効果等について理解を深め、構成表現の可能性を追究する。

■到達目標

- ・課題制作を通して、平面的、立体的に構成する能力を身につける。
- ・金属素材の特性を理解する。
- ・金属制作の基本的技能を習得する。
- ・課題制作のなかで発想を広げ構想し、制作を展開できる。

■授業計画・方法

1. (導入) ガイダンス、ドローイング、作品構想
2. 平面構成(制作) 構成における分割や配置、配色を工夫して図面を作成する。
3. 平面構成(制作) 図面を参考に、型紙模型を作成する。
4. 平面構成(作品プレゼンテーション)
5. 立体構成(制作) アーク溶接技能講習・溶接技術を習得し、鉄を溶接しながら対象の構成を意識する。
6. 立体構成(制作) 技法/切断
7. 立体構成(制作) 技法/削り
8. 立体構成(制作) 技法/磨き
9. 立体構成(制作) ドローイングを確認し、表現における対象と作品の関係を理解する。
10. 立体構成(制作) 切断、削り、磨き等の加工技術を駆使して、材料の特性を理解する。
11. (鑑賞) スライド及び参考作品鑑賞・形体や色彩に見られる構成や構造の工夫、材料や技法の活用及び効果
12. 立体構成(制作) 材質などの効果的な使い方を考え、構造や機能を工夫する。
13. 立体構成(制作) 立体構成における構造と重心、バランスの関係を意識する。
14. 立体構成(制作) 錆止め、着色
15. 立体構成(講評) 自己評価とディスカッション、作品記録
定期試験は実施しない。

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・実習終了後には指定された場所に作品を提出展示し、自己評価を含めて講評会を行う。
- ・講評会の後、作品の写真等による記録作成を各自で行い、ドローイング・試作・課外制作等の記録もあわせて年度末にポートフォリオとして提出する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（制作への取組）40%、成果作品（ドローイング1点、課題作品1点）60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 参考文献 朝倉直巳『紙による構成・デザイン』美術出版社、厚生労働省安全課編『アーク溶接等作業の安全』中央労働災害防止協会、『金属材料活用事典』産業調査会事典出版センター
- 参考資料 学生参考作品

22312	彫刻Ⅲ	13単位 前期	3	実技	波多野 泉 河原 圭佑 早川 信志	砂川 泰彦 長尾 恵那 非常勤講師
-------	-----	---------	---	----	-------------------------	-------------------------

※平成29年度入学生の学生対象科目

■テーマ 素材、技法の応用と表現

■授業の概要

展示発表を前提とした制作のなかで、素材・技法への自己の適性を深く追究する。その過程で、自らのテーマ創出と実験的・独創的な作品制作を積極的に試行し、彫刻表現の実際について学び表現の可能性を探る。

■到達目標

- ・ 彫刻素材の特性を理解し、テラコッタ及び金属彫刻の基本的技能を習得する。
- ・ 作品制作、設置における安全知識を身につける。
- ・ 実制作、設置発表の経験を通して、「野外彫刻」「モニュメント」「パブリックアート」「環境造形」「彫刻の社会性」について理解し、一定の見解を論述できるようになる。

■授業計画・方法

1. テラコッタ実習：課題説明、糸満市・北中城村テラコッタ設置状況視察
2. テラコッタ実習：土作り、シャモット作り、水簸、混練
3. テラコッタ実習：粘土積み上げ／素材の特性、粘土の乾燥を考慮し造形を進める。
4. テラコッタ実習：焼成、修正、台座づくり（窯組み・窯崩し）（焼成の温度管理、窯組技術の習得）
5. テラコッタ実習：講評
6. 金属実習2：ガイダンス、ドローイング（プレゼンテーション：作品構想の発表）
7. 金属実習2：非鉄金属実習（ステンレススチール、アルミニウム、銅、真鍮の知識を習得する。）
8. 金属実習2：制作（小型工具、大型工作機械等金属工房機器の扱いを習得する。）
9. 金属実習2：スライド及び参考作品鑑賞（東南アジアの金属彫刻を中心に）
10. 金属実習2：フィニッシュワーク 腐蝕・着色作業（サビ付け、黒鉛付け、研磨による磨き）
11. 金属実習2：講評
学部生展：全体講評
12. シリコン取り実習、鋳造実習
14. 制作A（課題設定）：ドローイング、マケット制作、各分野の教員と相談後プレゼンテーション
15. 制作A（小～中作品制作）：素材・技法の選択、素材研究
16. 制作A：（フィニッシュワーク）：展示計画
17. 制作B（中～大作品制作）：ドローイング、マケット制作、各分野の教員と相談後プレゼンテーション
18. 制作B：素材・技法研究（素材の特性の理解）
19. 制作B：表現の充実、展示計画構想
20. 制作B：フィニッシュワーク、展示計画
成果展：全体講評

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・ 焼成に係る作業は学年を越えて協働で行う。
- ・ 講評会の後、作品の写真等による記録作成を各自で行い、デッサン・ドローイング・試作・課外制作等の記録もあわせて年度末にポートフォリオとして提出する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（制作への取組）40%、成果作品60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- テキスト プリント「非鉄金属の知識」
- 参考文献 水沢勉 他(編)『空間に生きる-日本のパブリックアート』空間造形コンサルタント、安斎重男『現代日本の野外彫刻』講談社、竹田直樹『日本の彫刻設置事業-モニュメントとパブリックアート』公人の友社
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

【実習名】 テラコッタ実習

【期間】 4月7日(火)～5月7日(木) 7月13日(月)～29日(水) 8～9月(焼成)

【教室】 多目的実習室(彫刻棟3)

【担当】 砂川 泰彦、早川 信志、非常勤講師

【課題】 テラコッタ野外彫刻

【授業の概要】 (テーマ)屋外設置を前提にした彫刻制作

- ・ 一人1t程度の土を準備し、公園等の公共空間への永久設置を想定した造形物を構想し実作する。
- ・ 制作にあたっては土を実材と捉え、大量の土と格闘しながら土との“対話”を試み、彫刻素材としての土の発する“ことば”を聞く。
- ・ 原土精製から成形・乾燥を経て築窯・焼成・崩窯・修整・設置等一連の工程を学年全員の協働で行う。
- ・ 実制作を通して「野外彫刻」「モニュメント」「パブリックアート」「環境造形」「彫刻の社会性」のあり方等について考察する。

【到達目標】

- ・ 彫刻素材の特性を理解し、テラコッタ彫刻制作の基本的技能を習得する。
- ・ 内容(芸術性)のある作品が制作できる。
- ・ 一定の完成度(技術力)を上げられる。
- ・ 実制作を通して「野外彫刻」「モニュメント」「パブリックアート」「環境造形」「彫刻の社会性」について理解し、そのあり方について一定の見解を論述できる。

【授業計画・方法】

1. 課題説明、糸満市・北中城村テラコッタ設置状況視察、「野外彫刻」「パブリックアート」のあり方についての考察
2. 土作り
3. シャモット作り2t:混練(赤土50%+クチャ50%+粃殻)→乾燥→焼成(900°)→粉碎(ランマー)→ふるい
4. 水簾/5t:赤土原土を水に溶かした後、メッシュで濾過し石灰岩細石を除去。トン袋に充填し水切り
5. 混練/7t~:赤土(水簾済)40%+クチャ40%+シャモット20%=100kg(大型土練機一回分)
6. 構想発表(マケット・ドローイング)、プレゼン→制作開始
7. 作品下部テラコッタ粘土積み上げ
8. 粘土を積み上げながら形を整える。自重と作品構造を検討する。
9. 粘土を積み上げる。素材の特性を考慮し、造形する。
10. 粘土の乾燥と強度から、作品の制作進行を検討する。
11. 彫刻として量塊と構造を確認する。
12. 乾燥に気を付けて積み上げ、造形する。
13. 素材の特性を理解し、細部制作を行なう。
14. 成形終了→自然乾燥一ヶ月間、焼成前除湿機乾燥2週間。粘土素材の特性を理解する。
15. 焼成、修正、台座づくり…窯組み・窯崩し(全員)。焼成の温度変化、窯組技術の習得を目指す。
学内発表(崎山キャンパス中庭)、講評

【成果物】 テラコッタ作品1点、レポート1点

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点(制作への取組)40%、成果作品(テラコッタ作品)60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

- 参考文献 学生参考作品

【実習名】 金属実習2

【期間】 6月1日(月)～7月10日(金)

【教室】 金属工房(彫刻棟2)、金属実習室(彫刻棟3)

【担当】 河原 圭佑、吉田 香世(非)

香世(非)

【課題】 金属(非鉄金属を含む)素材による作品制作

【授業の概要】 (テーマ) 各自のテーマによる。

- ・ 金属の加工技術において、非鉄金属材料や精密機械工具の使用方法について学ぶ。
- ・ 自由な発想でテーマ設定し、自らのテーマ創出と実験的・独創的な作品制作を積極的に試行し、彫刻表現の実際について学びその可能性を探る。
- ・ 作品についてのディスカッションを適宜全体で行い、作品制作過程における個々の問題点などを論じ合う。

【到達目標】

- ・ 非鉄金属(ステンレススチール、アルミニウム、銅、真鍮)の知識を修得する。
- ・ 金属素材の特性を理解し、溶接・溶断・切断・研磨・鍛造等の金属造形の技法を修得する。
- ・ ガス、アーク溶接や大型工作機械の操作における安全知識を修得する。
- ・ 課題制作におけるプレゼンテーションや講評会での言語によるコミュニケーション能力をより高める。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、ドローイング：自らのテーマ創出と実験的・独創的な作品制作を積極的に試行する。
2. ドローイング、プレゼンテーション：彫刻表現の可能性を探り自身の言葉で発表する。
3. 非鉄金属(ステンレススチール、アルミニウム、銅、真鍮)の知識を修得する。
4. 制作：制作対象のイメージに合う金属材料を探求する。
5. 制作：金属素材の選定、作品サイズを決定する。
6. 制作：大型工作機械や金属工房機材を用いて金属素材を加工する。
7. 制作：アーク溶接、ガス溶接の技術を用いて金属素材を加工する。
8. 制作：金属彫刻における構造と重心、バランスの関係を意識する。
9. 中間講評：作品制作過程における個々の問題点などを論じ合う。
10. 制作：スライド及び参考作品鑑賞(東南アジアの金属彫刻を中心に)
11. 制作：デッサンを確認し、表現における対象と作品の関係を理解する。
12. 制作：実践を通して独創的な鉄の表現や作品の構成を意識する。
13. 制作：作品の設置方法を考慮しながら、作品の安定性と安全面の確認を行う。
14. 制作：腐蝕、着色作業(サビ付け、黒鉛付け、研磨による磨き)
15. 講評、自己評価とディスカッション、作品記録、掃除

【成果物】 ドローイング1点、課題作品1点、レポート(制作意図等)

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点(制作への取組)40%、成果物(作品1点、ドローイング1点、レポート1件)60%
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

- テキスト プリント「非鉄金属の知識」
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

【実習名】 鋳造実習

【期間】 10月7日(水)～16日(金)

【教室】 鋳造室(彫刻棟3)

【担当】 津波 夏希(非)、山岸 雅和(非)

【課題】 蠟型鋳造作品制作

【授業の概要】 (テーマ) シリコン型蠟原型による蠟型鋳造技法

シリコン型取りによる蠟原型制作を経て、石膏型ロストワックス鋳造を実習する。

【到達目標】

- ・ シリコン取り技法の基礎を修得する。
- ・ 石膏蠟型鋳造の基礎を修得する。

【授業計画・方法】

1. シリコン雌型取り：原型前処理、原型見切り、巾置、シリコン塗布、ガーゼ貼り、石膏寄せ取り
2. シリコン雌型取り：寄せ型補強、型返し、雌型裏面（シリコン塗布、ガーゼ貼り）
3. シリコン雌型取り：石膏寄せ取り、寄せ型補強
4. シリコン雌型取り：雌型外し
5. シリコン雌型取り：
6. 蠟型鋳造：
7. 蠟型鋳造：
8. 蠟型鋳造：
9. 蠟型鋳造：
10. 蠟型鋳造：
11. 蠟型鋳造：
12. 蠟型鋳造：
13. 蠟型鋳造：
14. 蠟型鋳造：
15. 講評、掃除

【成果物】 ブロンズ作品1点

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点(実習への取組) 50%、成果物 50%
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

- テキスト プリント「蠟の基本配合比」
- 参考文献 『蠟型彫刻の技法』(山本正道 他、美術出版社)
- 参考資料 ブロンズ参考作品

【実習名】 制作A、制作B

【期間】 10月19日(月)～1月29日(金)

【教室】 彫刻棟1、2、3

【担当】 彫刻専攻教員

【課題】 自己のテーマに基づいた作品制作

【授業の概要】 (テーマ) 作品テーマの創出と作品化

展示発表を前提とした制作のなかで、素材・技法への自己の適性を深く追究する。その過程で、自らのテーマ創出と実験的・独創的な作品制作を積極的に試行し、彫刻表現の実際について学び表現の可能性を探る。

【到達目標】

- ・制作において、主体的にテーマを創出し、自ら課題を発見できる。
- ・素材の特性を理解し、制作において実験的試行ができる。
- ・自ら課題を解決し、自己のテーマに沿って独創的な造形思考ができる。

【授業計画・方法】

1. 制作A (課題) 各分野の教員の指導後プレゼンテーション
2. 制作A (課題) 素材の特性の理解と選択
3. 制作A (課題) 素材・技法の再検討、素材研究
4. 制作A (課題) 展示発表計画
5. 制作A (課題) 作品講評 (成果展出品)
6. 制作B 主体的にテーマを創出し、各分野教員の指導後プレゼンテーション
7. 制作B ドローイング、マケット制作
8. 制作B 素材・技法の選択
9. 制作B 素材の特性の確認
10. 制作B 技法、工程の確認
11. 制作B 担当教員 (素材・技法ごと複数) とのディスカッション
12. 制作B 素材研究、作例研究
13. 制作B 制作工程、展示計画確認
14. 制作B 作品の密度と効果検証
15. 制作B 仕上げ、展示計画

成果展：全体講評

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点 (制作への取組) 40%、成果物 (ドローイング、作品、レポート各2点) 60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献 (資料) 等】

- 参考資料 学生参考作品

22313	彫刻Ⅲ-I	6単位 前期	3	実技	波多野 泉 河原 圭佑	砂川 泰彦 早川 信志 非常勤講師
-------	-------	--------	---	----	----------------	-------------------------

■テーマ 素材、技法の応用と表現

■授業の概要

展示発表を前提とした制作のなかで、素材・技法への自己の適性を深く追究する。その過程で、自らのテーマ創出と実験的・独創的な作品制作を積極的に試行し、彫刻表現の実際について学び表現の可能性を探る。

■到達目標

- ・ 彫刻素材の特性を理解し、テラコッタ及び金属彫刻の基本的技能を習得する。
- ・ 作品制作、設置における安全知識を身につける。
- ・ 実制作、設置発表の経験を通して、「野外彫刻」「モニュメント」「パブリックアート」「環境造形」「彫刻の社会性」について理解し、一定の見解を論述できるようになる。

■授業計画・方法

1. テラコッタ実習：課題説明、糸満市・北中城村テラコッタ設置状況視察
2. テラコッタ実習：土作り、シャモット作り、
3. テラコッタ実習：水簸、混練
4. テラコッタ実習：粘土積み上げ／素材の特性、粘土の乾燥を考慮し造形を進める。
5. テラコッタ実習：焼成、(窯組み・窯崩し) (焼成の温度管理、窯組技術の習得)
6. テラコッタ実習：修正、台座づくり
7. テラコッタ実習：学内発表(崎山キャンパス中庭)、講評
8. 金属実習2：ガイダンス、ドローイング(プレゼンテーション：作品構想の発表)
9. 金属実習2：非鉄金属実習(ステンレススチール、アルミニウム、銅、真鍮の知識を習得する。)
10. 金属実習2：制作(小型工具、大型工作機械等金属工房機器の扱いを習得する。)
11. 金属実習2：中間講評 個々の問題点を話し合う。
12. 金属実習2：スライド及び参考作品鑑賞(東南アジアの金属彫刻を中心に)
13. 金属実習2：実践を通して独創的な鉄の表現や作品の構成を意識する。
14. 金属実習2：フィニッシュワーク 腐蝕・着色作業(サビ付け、黒鉛付け、研磨による磨き)
15. 金属実習2：講評、自己評価とディスカッション、作品記録、掃除
成果展にて発表する。全体講評

■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

- ・ 焼成に係る作業は学年を越えて協働で行う。
- ・ 講評会の後、作品の写真等による記録作成を各自で行い、デッサン・ドローイング・試作・課外制作等の記録もあわせて年度末にポートフォリオとして提出する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点(制作への取組)40%、成果作品60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献(資料)等

- テキスト プリント「非鉄金属の知識」
- 参考文献 水沢勉 他(編)『空間に生きる-日本のパブリックアート』空間造形コンサルタント、安斎重男『現代日本の野外彫刻』講談社、竹田直樹『日本の彫刻設置事業-モニュメントとパブリックアート』公人の友社
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

【実習名】 テラコッタ実習

【期間】 4月7日(火)～5月7日(木) 7月13日(月)～29日(水) 8～9月(焼成)

【教室】 多目的実習室(彫刻棟3)

【担当】 砂川 泰彦、早川 信志、非常勤講師

【課題】 テラコッタ野外彫刻

【授業の概要】 (テーマ)屋外設置を前提にした彫刻制作

- ・ 一人1t程度の土を準備し、公園等の公共空間への永久設置を想定した造形物を構想し実作する。
- ・ 制作にあたっては土を実材と捉え、大量の土と格闘しながら土との“対話”を試み、彫刻素材としての土の発する“ことば”を聞く。
- ・ 原土精製から成形・乾燥を経て築窯・焼成・崩窯・修整・設置等一連の工程を学年全員の協働で行う。
- ・ 実制作を通して「野外彫刻」「モニュメント」「パブリックアート」「環境造形」「彫刻の社会性」のあり方等について考察する。

【到達目標】

- ・ 彫刻素材の特性を理解し、テラコッタ彫刻制作の基本的技能を習得する。
- ・ 内容(芸術性)のある作品が制作できる。
- ・ 一定の完成度(技術力)を上げられる。
- ・ 実制作を通して「野外彫刻」「モニュメント」「パブリックアート」「環境造形」「彫刻の社会性」について理解し、そのあり方について一定の見解を論述できる。

【授業計画・方法】

1. 課題説明、糸満市・北中城村テラコッタ設置状況視察、「野外彫刻」「パブリックアート」のあり方についての考察
2. 土作り
3. シャモット作り2t:混練(赤土50%+クチャ50%+粃殻)→乾燥→焼成(900°)→粉砕(ランマー)→ふるい
4. 水簾/5t:赤土原土を水に溶かした後、メッシュで濾過し石灰岩細石を除去。トン袋に充填し水切り
5. 混練/7t~:赤土(水簾済)40%+クチャ40%+シャモット20%=100kg(大型土練機一回分)
6. 構想発表(マケット・ドローイング)、プレゼン→制作開始
7. 作品下部テラコッタ粘土積み上げ
8. 粘土を積み上げながら形を整える。自重と作品構造を検討する。
9. 粘土を積み上げる。素材の特性を考慮し、造形する。
10. 粘土の乾燥と強度から、作品の制作進行を検討する。
11. 彫刻として量塊と構造を確認する。
12. 乾燥に気を付けて積み上げ、造形する。
13. 素材の特性を理解し、細部制作を行なう。
14. 成形終了→自然乾燥一ヶ月間、焼成前除湿機乾燥2週間。粘土素材の特性を理解する。
15. 焼成、修正、台座づくり→窯組み・窯崩し(全員)。焼成の温度変化、窯組技術の習得を目指す。
学内発表(崎山キャンパス中庭)、講評

【成果物】 テラコッタ作品1点、レポート1点

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点(制作への取組)40%、成果作品(テラコッタ作品)60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

- 参考文献 学生参考作品

【実習名】 金属実習2

【期間】 6月1日（月）～7月10日（金）

【教室】 金属工房（彫刻棟2）、金属実習室（彫刻棟3）

【担当】 河原 圭佑、吉田 香世（非）

【課題】 金属（非鉄金属を含む）素材による作品制作

【授業の概要】（テーマ）各自のテーマによる。

- ・ 金属の加工技術において、非鉄金属材料や精密機械工具の使用方法について学ぶ。
- ・ 自由な発想でテーマ設定し、自らのテーマ創出と実験的・独創的な作品制作を積極的に試行し、彫刻表現の実際について学びその可能性を探る。
- ・ 作品についてのディスカッションを適宜全体で行い、作品制作過程における個々の問題点などを論じ合う。

【到達目標】

- ・ 非鉄金属（ステンレススチール、アルミニウム、銅、真鍮）の知識を修得する。
- ・ 金属素材の特性を理解し、溶接・溶断・切断・研磨・鍛造等の金属造形の技法を修得する。
- ・ ガス、アーク溶接や大型工作機械の操作における安全知識を修得する。
- ・ 課題制作におけるプレゼンテーションや講評会での言語によるコミュニケーション能力をより高める。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、ドローイング：自らのテーマ創出と実験的・独創的な作品制作を積極的に試行する。
2. ドローイング、プレゼンテーション：彫刻表現の可能性を探り自身の言葉で発表する。
3. 非鉄金属（ステンレススチール、アルミニウム、銅、真鍮）の知識を修得する。
4. 制作：制作対象のイメージに合う金属材料を探求する。
5. 制作：金属素材の選定、作品サイズを決定する。
6. 制作：大型工作機械や金属工房機材を用いて金属素材を加工する。
7. 制作：アーク溶接、ガス溶接の技術を用いて金属素材を加工する。
8. 制作：金属彫刻における構造と重心、バランスの関係を意識する。
9. 中間講評：作品制作過程における個々の問題点などを論じ合う。
10. 制作：スライド及び参考作品鑑賞（東南アジアの金属彫刻を中心に）
11. 制作：デッサンを確認し、表現における対象と作品の関係を理解する。
12. 制作：実践を通して独創的な鉄の表現や作品の構成を意識する。
13. 制作：作品の設置方法を考慮しながら、作品の安定性と安全面の確認を行う。
14. 制作：腐蝕、着色作業（サビ付け、黒鉛付け、研磨による磨き）
15. 講評、自己評価とディスカッション、作品記録、掃除

【成果物】 ドローイング1点、課題作品1点、レポート（制作意図等）

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点（制作への取組）40%、成果物（作品1点、ドローイング1点、レポート1件）60%
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

【テキスト・参考文献（資料）等】

- テキスト プリント「非鉄金属の知識」
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22314	鍛造	1単位 前期	3	実技	河原 圭佑

■テーマ 鍛造技法による植物の造形

■授業の概要

工芸分野において伝統的に継承研究されてきた鍛金技法を彫刻表現に応用し、鍛造技法による彫刻作品を制作する。その中で、工芸分野など近接する他分野の創造活動に関わる様々な技法等を応用する能力を身に付ける。また、日本、アジアの金属造形を中心に伝統的な造形文化の理解を深め、多様な美的感覚と価値観の涵養を図る。

■到達目標

- ・鍛金技法の原理を理解し、一定の鍛造技術を習得する。
- ・課題テーマのなかで発想を広げ構想し、制作を展開できる。
- ・工芸分野の伝統技法の実践を通して、日本及びアジアの造形文化の理解を深める。

■授業計画・方法

1. 導入：ガイダンス、ドローイング、作品構想
 2. 図面制作：鍛造における鋼材の特性や加工を工夫して図面を作成する。
 3. 模型制作：図面を参考に、型紙模型を作成する。
 4. 作品プレゼンテーション
 5. ガス溶接技能講習：溶接技術を習得し、鉄を溶接しながら立体の構想を意識する。
 6. 鍛造実習：技法/乾湿鍛造と熱間鍛造
 7. 鍛造実習：プレス加工、木型・金型加工
 8. 鍛造制作：制作方法を理解し、模型を基に意図に応じて材料や用具を活用する。
 9. 鍛造制作：ドローイングと模型を確認し、表現における対象と作品の関係を理解する。
 10. 鍛造制作：身近な生活や自己の思いなどから心豊かな発想をする。
 11. 鑑賞：スライド及び参考作品鑑賞 - タイ王国の金属彫刻・工芸を中心に
 12. 鍛造制作：手順や技法を吟味し、創意工夫して制作する。
 13. 鍛造制作：立体作品における構造と重心、バランスの関係を意識する。
 14. 鍛造制作：フィニッシュワーク - 錆止め、着色
 15. 講評：自己評価とディスカッション、作品記録、掃除
- 定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・実習終了後には指定された場所に作品を提出展示し、自己評価を含めて講評会を行う。
- ・講評会の後、作品の写真等による記録作成を各自で行い、ドローイング・試作・課外制作等の記録もあわせて年度末にポートフォリオとして提出する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（制作への取組）40%、成果作品（ドローイング1点、課題作品1点）60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 参考文献 山下恒雄 他『鍛金の実際』美術出版社、香取正彦 他『金工の伝統技法』理工学社、厚生労働省安全課編『ガス溶接・溶断作業の安全』中央労働災害防止協会、『高圧ガス保安教育・基礎講習テキスト』高圧ガス保安協会、『金属材料活用事典』産業調査会事典出版センター
- 参考資料 学生参考作品

22315	彫刻Ⅲ-Ⅱ	6単位 後期	3	実技	波多野 泉 河原 圭佑 早川 信志	砂川 泰彦 長尾 恵那 非常勤講師
-------	-------	--------	---	----	-------------------------	-------------------------

■テーマ 作品テーマの創出と作品化

■授業の概要

展示発表を前提とした制作のなかで、素材・技法への自己の適性を深く追究する。その過程で、自らのテーマ創出と実験的・独創的な作品制作を積極的に試行し、彫刻表現の実際について学び表現の可能性を探る。

■到達目標

- ・制作において、主体的にテーマを創出し、自ら課題を発見できる。
- ・素材の特性を理解し、制作において実験的試行ができる。
- ・自ら課題を解決し、自己のテーマに沿って独創的な造形思考ができる。

■授業計画・方法

1. 制作A (エスキース) 各分野の教員の指導後プレゼンテーション
2. 制作A (エスキース) 素材の特性の理解と選択
3. 制作A (エスキース) 素材・技法の再検討、素材研究
4. 制作A (エスキース) 展示発表計画
5. 制作A (エスキース) 作品講評
6. 制作B 主体的にテーマを創出し、各分野教員の指導後プレゼンテーション
7. 制作B ドローイング、マケット制作
8. 制作B 素材・技法の選択
9. 制作B 素材の特性の確認
10. 制作B 技法、工程の確認
11. 制作B 担当教員(素材・技法ごと複数)とのディスカッション
12. 制作B 素材研究、作例研究
13. 制作B 制作工程、展示計画確認
14. 制作B 作品の密度と効果検証
15. 制作B 仕上げ、展示計画
成果展にて発表する。全体講評

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・各実習終了後には指定された場所に作品を提出展示し、自己評価を含めて講評会を行う。
- ・講評会の後、作品の写真等による記録作成を各自で行い、デッサン・ドローイング・試作・課外制作等の記録もあわせて年度末にポートフォリオとして提出する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点(制作への取組)40%、成果作品60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献(資料)等

- テキスト プリント「非鉄金属の知識」
- 参考文献 水沢勉 他(編)『空間に生きる-日本のパブリックアート』空間造形コンサルタント、安斎重男『現代日本の野外彫刻』講談社、竹田直樹『日本の彫刻設置事業-モニュメントとパブリックアート』公人の友社
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22316	鑄造	1単位 後期	3	実技	波多野 泉

■テーマ 石膏蠟型鑄造

■授業の概要

彫刻の古典技法である鑄造技法を用いて、彫刻作品を制作する。その中で、工芸分野など近接する他分野の創造活動に関わる様々な技法等を応用する能力を身に付ける。また、世界の金属造形を中心に伝統的な造形文化の理解を深め、多様な美的感覚や価値観の涵養を図る。

■到達目標

- ・鑄造技法の原理を理解し、一定の石膏蠟型鑄造技術を習得する。
- ・課題テーマのなかで発想を広げ構想し、制作を展開できる。
- ・工芸分野の伝統技法の実践を通して、日本、アジア及び世界の造形文化の理解を深める。

■授業計画・方法

1. 導入（概要説明）：ガイダンス、材料の下準備
 2. 蠟作り：マイクロワックス、蜜蠟の混合
 3. 蠟原型：手捻り・シリコン（石膏）雌型肌蠟塗り、蠟裏打ち、蠟流し込み
 4. 蠟原型：細部制作、雌型外し、修整・再彫刻
 5. 鑄造準備：筭（こうがい）・湯道付け
 6. 鑄型作り：肌石膏、荒石膏コーティング、
 7. 窯入れ・鑄型乾燥：窯作り、焼成(あぶり)
 8. 鑄型焼成：脱蠟、鑄型焼成
 9. 鑑賞：スライド及び参考作品鑑賞 - 日本、アジア及び世界の鑄造
 10. 鑄造(鑄込み)：地金溶解（ブロンズ溶解）、鑄型補強（石膏補強・土中埋没）
 11. 鑄造(鑄込み)：ブロンズ流し込み、鑄型起し
 12. 仕上げ：鑄型割り、湯道取り、筭抜き、バリ取り、ヤスリがけ
 13. 仕上げ：酸洗い、タガネ仕上げ等
 14. 仕上げ：着色等
 15. 講評、自己評価
- 定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・実習終了後には指定された場所に作品を提出展示し、自己評価を含めて講評会を行う。
- ・講評会の後、作品の写真等による記録作成を各自で行い、ドローイング・試作・課外制作等の記録もあわせて年度末にファイルとして提出する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（制作への取組）40%、成果作品（課題作品1点）60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 参考文献 山本正道 他『蠟型彫刻の技法』美術出版社、中牟田佳彰『イタリア美術鑄物』東京美術、石野亨『鑄造技術の源流と歴史』産業技術センター、香取正彦 他『金工の伝統技法』理工学社、鹿取一男『美術鑄造の手法』アグネ
- 参考資料 参考作品

22412	彫刻Ⅳ	14単位 通年	4	実技	波多野 泉 河原 圭佑 非常勤講師	砂川 泰彦 長尾 恵那
-------	-----	---------	---	----	-------------------------	----------------

■テーマ 彫刻表現研究と卒業制作

■授業概要

自己のテーマを創出し、独創的で完成度のある作品表現を目標に、前・後学期別に計画を立てて展覧会発表を前提に制作する。教員の実務経験を背景にした指導により、社会での作品発表を念頭に具体的な方法論を実践的に学ぶ。前・後学期中に制作した作品の中から卒業作品として提出する。

■到達目標

- ・制作において、主体的にテーマを創出し、自ら彫刻表現の課題を発見できる。
- ・自ら課題を解決し、自己のテーマに沿って独創的な造形思考ができる。
- ・自らの考えを論理的に記述し、口頭で発表できる。
- ・卒業制作相当の質（高い完成度、説得性）、量（ボリューム、作品数）の作品を制作し、発表できる。

■授業計画・方法

1. 作品構想：テーマの創出、素材・技法の研究（表現素材の特性を理解し構想する。）
2. 前期制作プレゼンテーション：作品構想（作品1点以上のドローイング複数枚、エスキース）
3. 作品コンセプトについて担当教員とのディスカッション
4. 制作に伴う作例研究、素材・技法の確認
5. 中間発表、展示計画確認
6. 高い完成度の追求
7. 前期成果発表展：講評、自己評価とディスカッション
8. 後期制作プレゼンテーション：エスキース・ドローイング複数枚の構想計画
9. 制作：表現素材の特性を理解する。
10. 制作：作品コンセプトについて担当教員とのディスカッション
11. 制作：素材・技法の確認、展示計画構想
12. 制作：中間発表1：作品コンセプトとの整合確認
13. 制作：作品の構造、表現の方法などの修正
14. 制作：中間発表2：作品コンセプトとの整合確認、フィニッシュワーク（密度等）の方向性確認
15. 制作：作品の完成度確認、作品展示計画決定
卒展：全体講評、自己評価とディスカッション

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・展覧会後に作品の写真等による記録作成を各自で行い、デッサン・ドローイング・試作・課外制作等の記録もあわせて学年末にポートフォリオとして提出する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（制作への取組）30%、成果物70%による総合評価
〈成果物〉作品2点以上、作品コンセプトシート（制作意図等）、ドローイング1点（木炭紙大）、ポートフォリオ
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 適宜、教示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22231	彫刻特論Ⅰ	2単位 通年	2	講義	波多野 泉 河原 圭佑 非常勤講師 砂川 泰彦 長尾 恵那

■テーマ 彫刻史概観

■授業の概要

彫刻表現について、素材・技法等の観点から美術史上の彫刻作品を中心に制作、修理等の実際を踏まえて考察する。実技実習及び演習の授業進行に合わせ、スライド、ビデオ、配付資料等を用いて彫刻の歴史及び理論の理解を深めるとともに、実際の彫刻制作へと繋げる。

■到達目標

- ・ 東西の彫刻の歴史の概要を理解し、適切に説明することができる。
- ・ 彫刻を中心とした美術作品について、その背景と技法等を理解する。

■授業計画・方法

1. ガイダンス、アジアの造形1（地域と素材）：西アジア～中央アジア～中国先史～殷・周（波多野）
2. 日本の彫刻：木彫史を中心に、「私的彫刻史年表」作成（長尾）
3. オリент（メソポタミア、エジプト）の彫刻（砂川）
4. 東南アジアの造形1：ミャンマー～タイ～ラオス～ベトナム（河原）
5. 近代以降の塑造：フランス・イタリア・日本を中心に（波多野）
6. 東大寺南大門：仁王像解体修理1（長尾）
7. オリент（シリア、パレスチナ）～ギリシアの彫刻（砂川）
8. 東南アジアの造形2：タイの仏教彫刻（タイアートにおける漆喰素材）（河原）
9. アジアの造形2（背景と主題）：秦・漢・三国・南北朝・隋・唐（波多野）
10. 東大寺南大門：仁王像解体修理2（長尾）
11. ルネサンス、バロックの石彫（砂川）
12. 東南アジアの造形3：タイの金属彫刻（銀素材の加工と表現）（河原）
13. アジアの造形3（地域と表象）：高句麗・百済・新羅・高麗・日本の仏教彫刻（波多野）
14. 法隆寺宮大工西岡常一棟梁の仕事（長尾）
15. 「私の彫刻ノート(1)」発表、提出（砂川）
16. 東南アジアの造形4：北タイ仏教彫刻とランナー芸術（河原）
17. 野外彫刻の歴史：石仏からパブリックアートまで（非常勤講師）
定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・ 授業内で招聘講師として美術関係者等による特別講義がある。
- ・ 東西彫刻史の比較研究を中心に自学自習を要する。（方法については適宜指示する。）
- ・ 適宜レポートを課する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（授業への取組）40%、レポート・口頭発表60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 『法隆寺を支えた木』（西岡常一、小原二郎、NHK出版）（入手方法は指示する。）
- テキスト プリント「東大寺大仏」
- 参考文献 『木の文化』（小原二郎、鹿島出版会）、『奈良六大寺大観 1～14巻』（岩波書店）、DVD『甦る仁王』（東大寺南大門「仁王像解体修理記録」）、DVD『宮大工 西岡常一の仕事』、『世界美術大全集』・『世界美術大全集 東洋編』（小学館）、『タイ国家と文学』（吉岡みね子、溪水社）、『ハリプリンチャイ王国』（T. サンティ）、『アニメの像 VS. アートプロジェクト - まちとアートの関係史』（竹田直樹、公人の友社） 他

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22331	彫刻特論Ⅱ	2単位 通年	3	講義	波多野 泉 河原 圭佑 非常勤講師 砂川 泰彦 長尾 恵那

■テーマ 作品制作・発表の実際

■授業の概要

彫刻の表現、制作発表の実際について、実技実習の進行に合わせ、近代以降の美術史を踏まえ論考する。また、担当教員の実務経験を背景に、作家、作例等の具体例を素材、技法、造形思考、表現、発表の様態の観点から考察する。その上で、作品発表までのプロセスを自覚するために、受講者自らの制作の背景と思考の文章化を実践する。

■到達目標

- ・ 近現代の美術史を踏まえ、彫刻分野における多様な表現の実際を理解する。
- ・ 彫刻表現について、自らの考えを論理的に記述し、口頭発表することができる。

■授業計画・方法

1. ガイダンス、表現と素材1：戦後日本の彫刻を事例に（波多野）
2. 60年代アメリカ美術について（砂川）
3. 表現と素材2：金属彫刻1－技法（河原）
4. 日本の美術：明治以降の高等教育と社会の受容（長尾）
5. 作家論1（非常勤講師／美術家等）
6. 表現と素材3：現代日本の作家を事例に（波多野）
7. 野外での表現1：アースワーク（アメリカ、イギリス）（砂川）
8. 表現と素材4：金属彫刻2－作例から（河原）
9. 表現と素材5：長尾作品を事例に（長尾）
10. 表現と素材6：ニュー・ブリティッシュ・スカルプチュア、アルテ・ポーヴェラ他を事例に（波多野）
11. 野外での表現2：パブリックアートの展開（砂川）
12. 表現と素材7：現代のアメリカの作家を事例に（河原）
13. 作家論2（非常勤講師／美術家等）
14. 表現と素材8：作家、作例研究（波多野）
15. 作家論3（非常勤講師／美術家等）
16. 表現と素材9：レポート発表（砂川）
17. 表現と素材10：河原作品を事例に（河原）
定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・ 授業内で招聘講師として作家・美術関係者等による特別講義がある。
- ・ テーマごとに自学を要する。（方法については適宜指示する。）
- ・ 適宜レポートを課する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（授業への取組）40%、レポート・研究課題・口頭発表60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 参考文献 『空間に生きる・日本のパブリックアート』、『SCULPTURE Inside Outside』(Martin Friedman, Rizzoli International Publications, Inc.)、『今日のイギリス美術』（朝日新聞社）、『アルテ・ポーヴェラ：貧しい芸術』（金井直、豊田市美術館）、『House/Rachel Whiteread』（Phaidon Press）、『鋼鉄地帯』（西澤丞、太田出版）、『図解入門 最新金属の基本がわかる辞典-性質、加工、生産、表面処理の基礎知識』（田中和明、秀和システム）、『Dia:Beacon』（Dia Art Foundation）他

22291	古美術研究	4単位 後期	2	演習	彫刻専攻教員
-------	-------	--------	---	----	--------

■テーマ 日本、東洋古美術の研究

■授業の概要

主に近畿地方の仏教彫刻及び博物館等所蔵の優品の実地鑑賞と事前事後学習を通して、日本彫刻史を中心に日本・東洋美術への理解を深める。

■到達目標

- ・ 日本の上代から中世までの仏教彫刻を中心に、その周辺の文化とともに概要を理解する。
- ・ 事前事後学習、レポート等において、資料を適切に探索し、論理的に記述することができる。

■授業計画・方法

1. ガイダンス、日本彫刻史時代概説1：飛鳥～貞観
2. 日本彫刻史時代概説2：藤原～室町
3. 研究旅行（奈良市）：興福寺、新薬師寺、白毫寺
4. 研究旅行（奈良市～当麻）：東大寺（南大門、大仏殿、蓮弁登壇拝観、俊乗堂、法華堂、開山堂、二月堂、戒壇堂、東大寺ミュージアム）、秋篠寺、当麻寺
5. 研究旅行（桜井、長谷、室生）：聖林寺、長谷寺、大野寺磨崖仏、室生寺、（室生山上公園芸術の森）
6. 研究旅行（奈良市～南山城）：円成寺、（岩船寺）、浄瑠璃寺、（蟹満寺、観音寺）
7. 研究旅行（天理～飛鳥）：天理参考館、飛鳥資料館、飛鳥寺、亀形石造物、酒船石遺跡、岡寺、石舞台古墳、橘寺、亀石、鬼の雪隠・俎、猿石、益田岩船
8. 研究旅行（斑鳩～西の京）：法隆寺、中宮寺、法輪寺、法起寺、唐招提寺、薬師寺、（西大寺）
9. 研究旅行（奈良市）：元興寺、十輪院、奈良国立博物館
10. 研究旅行（宇治）：平等院
11. 研究旅行（滋賀）：善水寺、金剛輪寺、西明寺、渡岸寺、石道寺、己高閣
12. 研究旅行（洛北～嵯峨～太秦～高尾）：大徳寺（真珠庵、弧逢庵）、大報恩寺、竜安寺、広隆寺、神護寺
13. 研究旅行（洛中～東山～比叡）：教王護国寺（東寺）、蓮華王院（三十三間堂）、養源院、京都国立博物館、六波羅蜜寺、延暦寺（国宝殿、根本中堂、文殊楼、釈迦堂 等）
14. 研究旅行（東山～大阪）：東福寺、（国立国際美術館、国立民族学博物館）
15. まとめ
定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・ 事前に訪問拝観予定の仏像・藏品・建築・庭園等についての研究を行い、資料を作成し実地に臨む。
- ・ 授業終了後にレポートを課する。

■成績評価の方法・基準

【方法】 平常点（本授業への取組）40%、レポート60%による総合評価

【基準】 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

レポートについて、自身の制作の視点による論考は高く評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 参考資料 『法隆寺を支えた木』（西岡常一、小原二郎、NHK出版）、『奈良六大寺大観 第1～14巻』（岩波書店）、『平等院大観 第2巻 彫刻』（岩波書店）、『仏像図典』（佐和隆研、吉川弘文館）、DVD『甦る仁王』・『宮大工 西岡常一の仕事』・『日本の庭園』、『奈良の大仏 世界最大の鑄造仏（日本人はどのように建造物をつくってきたか）』（香取忠彦、草思社）他

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22121	絵画（彫）	2単位 前期	1	演習	高崎 賀朗 関谷 理 非常勤講師

■テーマ 様々な素材と様々な絵画技法（写真技法含む）による絵画制作

■授業の概要

前半は、写真技法（フォトグラム）や様々な絵画技法（直接表現・間接表現）による作品制作を行う。後半では、素材と技法の応用表現研究として、前半に制作した作品素材と各自が収集した身近な素材（自身の研究領域を含む）を制作材料とした絵画技法（コラージュ）による課題制作に取り組む。授業を通して、基礎的かつ一般的包括的な絵画表現について学ぶ。

■到達目標

- ・ 様々な絵画技法（写真技法含む。）を実践体験し、絵画表現について理解を深め作品制作を行うことができる。
- ・ 素材と技法の応用表現研究となる課題制作について理解し絵画作品として表現することができる。
- ・ 論理的に口頭での発表や記述を行うことができ、他者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる。

■授業計画・方法

1. 授業ガイダンス、写真技法（フォトグラム）の準備、説明
2. 写真技法（フォトグラム）による制作：撮影工程、素材の応用
3. 写真技法（フォトグラム）による制作：現像工程・停止工程・定着工程
4. 写真技法（フォトグラム）による制作：仕上げ、応用表現、完成
5. 様々な絵画技法の準備、説明、制作：①フロッタージュ、②パチック
6. 様々な絵画技法の準備、説明、制作：③デカルコマニー、④スパッタリング
7. 様々な絵画技法の準備、説明、制作：⑤マーブリング
8. 様々な絵画技法の準備、説明、制作：⑥モノタイプ
9. 課題「様々な絵画技法及び写真技法による作品と身近な素材の再構成による絵画制作」準備、説明
10. 絵画技法（コラージュ）による課題制作：発想及び構想計画
11. 絵画技法（コラージュ）による課題制作：コンセプトの立案
12. 絵画技法（コラージュ）による課題制作：制作途中作品の中間チェック
13. 絵画技法（コラージュ）による課題制作：素材と技法の応用、展開
14. 絵画技法（コラージュ）による課題制作：仕上げ、完成、コメントペーパー作成
15. ディスカッション会場設営、ディスカッション、成果作品及びコメントペーパー提出、片付け
定期試験は実施しない

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・ 実習時に必要となる身近な素材（自身の研究領域を含む）は各自で収集を行う。
- ・ 受講に際して実習材料費を徴収します。※内訳は実習期間中に連絡し残額は返金します。

■成績評価の方法・基準

- 方法 成果作品（フォトグラム作品、様々な絵画技法による作品ファイル、課題作品）60%、平常点（制作の取り組み）40%による総合評価。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- テキスト 授業内にプリント「写真技法（フォトグラム）」、「様々な絵画技法」を配布する。
- 参考文献 『アートスクールシリーズ ミクストメディア 用語と基礎知識』著者 マイカル・ライト(Michael Wright), 訳者 石関一夫, 美術出版社, 1995 年
- 参考資料：学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22209	デザイン (彫)	2単位 前期	2	演習	仲本賢 赤嶺雅

※ 彫刻専攻（平成30年度以降入学者のみ）受講可。

■テーマ 彫刻表現を活用してデザインの基礎

■授業の概要

彫刻表現を活用してデザインの基礎を総合的かつ包括的に学習する。様々な撮影方法と表現方法を学び、さらにパーソナルコンピュータを使用して、主に Adobe Photoshop と同社 Illustrator の両画像編集ソフトの学習をしながら、モチーフの観察・制作（インプット）から、紙媒体や映像メディアへの出力（アウトプット）までを、一貫して学習する。彫刻専攻の学生として作成した作品を撮影、入力、編集、出力を通して、デザインの過程を学習する。

■到達目標

- ・デザインの役割や平面構成、色彩構成としての基礎を理解することができる。
- ・映像機器（写真機、動画撮影機器）を使用して基本的な視覚デザイン表現ができる。
- ・コンピュータを使用し、印刷などの紙媒体の視覚伝達表現を実践的に活用することができる。

■授業計画・方法

1. 授業ガイダンス。デザインの社会的役割。
2. 平面構成（面と線、構図と空間の構成力）を学び、色彩構成（配色や効果について表現力）を学ぶ。（担当：赤嶺）
3. 映像機器の構造。照明及び周辺機器。（担当：仲本）
4. スタジオ撮影1。立体的な物体の効果的撮影方法。（担当：仲本）
5. スタジオ撮影2。自己作品の個別撮影方法研究。（担当：仲本）
6. デジタル写真現像。RAW データの現像処理。（担当：仲本）
7. デジタル写真現像。写真の修正（合成、変形）。（担当：仲本）
8. コンピュータ機器と OS 解説。基本機能、基本用語について。（担当：赤嶺）
9. Illustrator 基本操作1。印刷サイズについて。図形及び文字打ちなどの操作。（担当：赤嶺）
10. Illustrator 基本操作2。ツール及び配色や効果、各種パレットの操作。（担当：赤嶺）
11. Photoshop 基本操作1。画像の取り込み、画像解像度、画像補正の解説及び操作。（担当：赤嶺）
12. Photoshop 基本操作2。画像加工について、各種パレットの解説及び操作。（担当：赤嶺）
13. ソフト併用操作。レイアウトの設定、画像配置の基本操作。（担当：赤嶺）
14. 出力機器の操作及び課題制作のアウトプット。（担当：赤嶺）
15. 講評及びデザインの役割についてディスカッション。
定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・準備：デザイン基礎である平面構成、色彩構成の作品鑑賞や写真、コンピュータを理解する。
- ・復習：授業の中で行った講義及び実技はその日のうちに整理、復習を行う。
- ・展開：学んだ授業を実践的に作品へと展開し、具体的成果へと結びつける。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点(制作への取組)40%、成果物(プリント作品)60%による総合評価

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 配布するプリント

□テキスト 特になし

□参考文献 『基礎造形シリーズ 芸術・デザインの平面構成』朝倉直巳著（六耀社）、『基礎造形シリーズ 芸術・デザインの色彩構成』朝倉直巳著（六耀社）等々

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22341	工芸（彫）	2単位 前期	3	演習	波多野 泉 山田 聡

※彫刻専攻（平成30年度以降入学生のみ）受講可

■テーマ 工芸の素材、技法、工程とプロダクト制作

■授業の概要

陶芸の成研から焼成までの工芸作品制作を通して、基礎的かつ一般的包括的な工芸表現を学び、併せて、プロダクト制作を理解する。また、主に日本、アジアの工芸制作や工芸作品の鑑賞を通して、工芸文化、工芸表現の理解を深め、彫刻分野との比較研究の中で他分野の造形思考を応用できる精神を養う。

■到達目標

- ・工芸における素材と技法・工程を理解する。
- ・工芸制作の道具や機器等の操作ができる。
- ・工芸制作を通して、工芸の特性と量産の概念を理解する。
- ・地域の伝統工芸の表現と、日本の工芸の伝統や文化、アジアの工芸について理解を深める。

■授業計画・方法

1. ガイダンス、(生活の中の工芸 用と美) 工芸表現における石膏型制作について
2. タタラ成形法：基礎制作（担当：山田）
3. タタラ成形法：用途に応じた制作（担当：山田）
4. 手ひねりによる成型法：基礎制作（担当：山田）
5. 手ひねりによる成型法：用途に応じた制作（担当：山田）
6. 石膏型制作（担当：波多野）
7. 石膏型を用いたプロダクト制作
8. 焼成：電気窯・ガス窯作品乾燥
9. 焼成：素焼き
10. 窯出し
11. 施釉法解説：釉薬の種類と施釉法のレクチャー（担当：山田）
12. 施釉、窯詰め（担当：山田）
13. 工芸作品鑑賞と解説（日本の伝統工芸と文化、アジアの工芸について）（担当：山田）
14. 焼成～窯出し：本焼き、窯出し
15. 解説（生活環境の変化と工芸）、講評（自己評価とディスカッション）、清掃
定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

危険防止のため作業に適した服装で臨むこと。（事前に適宜指示する。）

■成績評価の方法・基準

【方法】 平常点（制作への取組）40%、成果作品（タタラ、手ひねり、石膏型）60%による総合評価

【基準】 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

作品の完成度、独創性は評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- テキスト 授業内に関係資料を配付する。
- 参考文献 大西政太郎『陶芸の土と窯焼き』理工学社
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22208	工芸B	2単位 前期	3	演習	山田 聡 非常勤講師

※平成 29 年度入学生（彫刻専攻）のみ受講可。

■テーマ 工芸の素材、技法、工程とプロダクト制作

■授業の概要

陶芸の成形から焼成までの工芸作品制作を通して、基礎的かつ一般的包括的な工芸表現を学び、併せて、プロダクト制作を理解する。また、主に日本、アジアの工芸制作や工芸作品の鑑賞を通して、工芸文化、工芸表現の理解を深め、彫刻分野との比較研究の中で他分野の造形思考を応用できる精神を養う。

■到達目標

- ・工芸における素材と技法・工程を理解する。
- ・工芸制作の道具や機器等の操作ができる。
- ・工芸制作を通して、工芸の特性と量産の概念を理解する。
- ・地域の伝統工芸の表現と、日本の工芸の伝統や文化、アジアの工芸について理解を深める。

■授業計画・方法

1. ガイダンス、(生活の中の工芸 用と美) 工芸表現における石膏型制作について
2. タタラ成形法：基礎制作 (担当：山田)
3. タタラ成形法：用途に応じた制作 (担当：山田)
4. 手ひねりによる成型法：基礎制作
5. 手ひねりによる成型法：用途に応じた制作
6. 石膏型制作
7. 石膏型を用いたプロダクト制作
8. 焼成：電気窯・ガス窯作品乾燥
9. 焼成：素焼き
10. 窯出し
11. 施釉法解説：釉薬の種類と施釉法のレクチャー (担当：山田)
12. 施釉、窯詰め (担当：山田)
13. 工芸作品鑑賞と解説(日本の伝統工芸と文化、アジアの工芸について) (担当：山田)
14. 焼成～窯出し：本焼き、窯出し
15. 解説(生活環境の変化と工芸)、講評(自己評価とディスカッション)、清掃
定期試験は実施しない。

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

危険防止のため作業に適した服装で臨むこと。(事前に適宜指示する。)

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点(制作への取組)40%、成果作品(タタラ、手ひねり、石膏型)60%による総合評価

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

■教科書・参考文献(資料)等

□テキスト 授業内に関係資料を配付する。

□参考文献 大西政太郎『陶芸の土と窯焼き』理工学社

□参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2単位 前 (集中)	1~4	講義	布施 英利(非)
-------	-----------	---------------	-----	----	----------

■テーマ 人体のかたちを筋肉から学ぶ

■授業の概要

人体についての講義です。美術の歴史では、人の体はいつも重要なモチーフでした。この講義では、人体の形と構造についての解剖学講義をします。「筋学」では、体幹、体肢、頭部などの筋肉の形態と構造について、部位別に、そして体系的に学びます。人体についての話のみでなく、芸術とのかかわりを重視し、おりにふれ美術についても論じます。筋学では、骨学で学んだ人体の骨格についての知識をもとに、そこにまさに筋肉を肉付けしていきます。そして体表の凹凸がどのようにできているかを理解し、自然で美しい人体の描写・造形を、自身の制作で実践できるよう、単にリアルな人体の表現ではなく、体の形態と構造を学ぶことで、美に迫る知性と感性を磨くことを目指します。

■到達目標

- ・体幹の筋肉について、その形態と構造を理解する。(人体を造形するための力とする。)
- ・体肢の筋肉について、その形態と構造を理解する。(手足を造形するための力とする。)
- ・顔の筋肉(=表情筋)について、その形態と構造を理解する。(頭部を造形するための力とする。)

■授業計画・方法

人体の形や構造をビジュアル的にも理解するため、言葉による説明だけでなく、解剖図や解剖の写真をスクリーンに映しながら講義を進めます。主な講義内容は以下となります。

- I. 美術解剖学概論
 - 1) ヒトの見方
 - 2) 解剖とは何か
 - 3) 美術と解剖学
- II. 美術解剖学各論
 1. 筋学
 - 1) 筋とは (骨格筋の種類・はたらきなど)
 - 2) 体幹の筋Ⅰ 胸と腹
 - 3) 体幹の筋Ⅱ 背中
 - 4) 上肢の筋Ⅰ 肩
 - 5) 上肢の筋Ⅱ 上腕
 - 6) 上肢の筋Ⅲ 回内・回外
 - 7) 上肢の筋Ⅳ 手首を曲げる筋
 - 8) 上肢の筋Ⅴ 指を曲げる筋
 - 9) 下肢の筋
 - 10) 頭部の筋
 2. 生体学
 - 1) 目、耳、鼻、口
 - 2) 皮膚と脂肪

III. まとめ

定期試験

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

講義用ノートを用意すること。授業に先立って、人体の造形(絵画・彫刻等)を各自で行い、授業により興味を持つよう準備する。

■成績評価の方法・基準

【方法】 平常点(授業への取組)20%、成果作品80%による総合評価

【基準】 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。(解剖学を学んだ成果が、人体を造形するのに役立つ力となっているかを測る。)

■教科書・参考文献(資料)等

□ 参考文献(大学附属図書館、彫刻専攻学科室にある。)

A・スンニョギイ(イラスト), ギュルジイ・フェール, 布施英利訳『イラストで学ぶ 美術解剖学』グラフィック社、Richer/Hale "ARTSTIC ANATOMY" WATOSON GUPTILL